
文化資源研究センター 活動報告

2013

人間文化研究機構
国立民族学博物館

はじめに

国立民族学博物館（民博）に文化資源研究センターが設置されて10年が経過しました。文化資源研究センターは2004年4月、国立大学の法人化に合わせ、民博が大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一員として再編されたのを機に、博物館機能を有する研究所としての役割をより十全に発揮するために、研究戦略センターとともに設置されたものです。

文化資源研究センターは、研究活動を通じて蓄積されるさまざまな情報や資料、経験や組織を、社会での活用が可能な文化資源として改めてとらえなおし、その有意義な活用の方途を研究・開発することを目的としています。「文化資源」という言葉に託されているのは、人間が生み出した有形・無形の所産とそれをめぐる知を、民博の活動を通じて、より広く社会と共有しようという意志です。

研究の推進に伴う資料や情報の集積と発信は、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示といった分野からなる一連のプロセスを経て実現されます。文化資源研究センターはこうした各分野の基礎研究や開発研究を進めるとともに、民博の研究者が主体となって実施する「文化資源プロジェクト」と「文化資源計画事業」を支援し、その推進のうえでの企画調整を行なっています。

2013年度、文化資源研究センターでは、プロジェクトや事業の支援として、資料収集や映像番組制作、資料修復の技術開発、各種データベースの構築や展示活動、教育プログラムの開発実施など、71件のプロジェクトや計画事業の実施を企画調整しました。

展示に関しては、現地研究者との協働によるフォーラム型展示のコンセプトに基づき、本館展示場の日本の文化展示（「沖縄のくらし」、「多みんぞくニホン」）、朝鮮半島の文化展示、中国地域の文化展示を新しく構築しました。特別展については、「マダガスカル霧の森のくらし」、「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic Museum」を、企画展については「アリラン——The Soul of Korea」（国際連携展示）、「アマゾンの生き物文化」、「武器をアートに——モザンビークにおける平和構築」、「台湾平埔族の歴史と文化」（国際連携展示）を実施し、研究の成果を文化資源の活用を通して広く社会に公開しました。本館展示の新構築は開館以来の全館を挙げた大プロジェクトであり、特別展、企画展も民博で推進されてきた研究の成果を社会のなかで共有するための重要な取り組みです。これらは、展示そのものにとどまらず、収集、保存、情報化のすべての分野にまたがる複合的な事業であり、文化資源研究センターはその全体の企画調整にあたっています。

民博は大学共同利用機関であり、博物館機能を有する文化人類学・民族学の研究所であるという、世界的に見ても類のないユニークな組織です。その特徴を最大限に発揮するため、私たち文化資源研究センターは大きな職責を担っています。この場を借りて、今後とも、各方面からのご助言、ご支援をお願いする次第です。

2014年12月
文化資源研究センター長
野林厚志

目 次

はじめに	2
文化資源研究センターの活動 2013（平成25）年度	
2013年度の活動概要	6
調査・収集分野	8
資料管理分野	9
情報化分野	11
社会連携分野	15
展示分野	17
文化資源関連事業	20
資 料 編	
調査・収集分野	23
資料1. 文化資源プロジェクト	23
資料2. 文化資源計画事業	24
資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務	28
資料管理分野	30
資料1. 文化資源プロジェクト（機関）	30
資料2. 情報管理施設のプロジェクト的な業務	30
情 報 化 分 野	32
資料1. 文化資源プロジェクト	32
資料2. 文化資源計画事業	33
資料3. 公開したデータベース	33
資料4. 情報を修正・追加したデータベース	33
資料5. 編集した研究用映像資料（文化資源プロジェクト）	34
資料6. 編集したビデオテープ短編番組と マルチメディア番組（文化資源プロジェクト）	35
資料7. 2013年度に公開した短編番組、マルチメディア番組、研究用映像資料	39
社会連携分野	42
資料1. 文化資源プロジェクト	42
資料2. 文化資源計画事業	43
展 示 分 野	62
資料1. 文化資源プロジェクト（機関）	62
資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）	62
資料3. 企画展	63
資料4. 本館展示新構築の準備	64
資料5. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）	65
資料6. その他の文化資源プロジェクト	66
資料7. その他の文化資源計画事業	67

文化資源関連事業	69
資料 1. JICA との連携による博物館学コース	69
スタッフ紹介（2013年度）	93

●.....●

文化資源研究センターの活動

2013(平成25)年度

●.....●

2013年度の活動概要

文化資源研究センターは、国立民族学博物館（民博）の文化資源の蓄積、管理や活用にかかわる多様な側面について、調査・収集、資料管理、情報化、社会連携、展示の分野から、先進的な基礎研究や開発研究を行なっている。

また、文化資源研究センターは、民博の研究者が主体となって提案、実施する「文化資源プロジェクト」「文化資源計画事業」の推進を支援している。そのためセンター教員は文化資源運営会議のもとにおかれた「資料収集・整理等専門部会」、「資料管理専門部会」、「展示場情報提供システム専門部会」、「博物館社会連携専門部会」、「展示専門部会」に所属し、当該文化資源プロジェクト等の企画調整に当たっている。それぞれの専門部会に所属する文化資源研究センター教員は以下のとおりである。

〈専門部会〉	〈センター教員〉
資料収集・整理等専門部会	久保正敏 日高真吾（部会長） 福岡正太 山本泰則 吉田憲司
資料管理専門部会	久保正敏 園田直子（部会長） 日高真吾 福岡正太
展示場情報提供システム専門部会	川瀬 慈 福岡正太（部会長） 山本泰則
博物館社会連携専門部会	上羽陽子（部会長） 川瀬 慈 小林繁樹
展示専門部会	上羽陽子 日高真吾 南真木人 吉田憲司（部会長）

本報告書では、活動内容を5つの分野別にわけて、各分野を担当する部会長が報告している。このほか集団研修博物館学集中運営委員会のもとに、集団研修博物館学集中研修専門部会があり、本センターからのメンバーは以下のとおりである。

上羽陽子
川瀬 慈
久保正敏

小林繁樹（部会長）

園田直子

林 勲男

日高真吾

吉田憲司

冒頭にも述べたように文化資源研究センターは2004年度に設置され、その後4年が経過した2008年度にその前年度の2007年度版『文化資源研究センター活動報告（以下、『活動報告』）』が刊行され、以降、文化資源研究センターの活動が紙媒体として残されてきたが、一昨年度からは紙媒体は廃止し、電子媒体として本館のホーム・ページに掲載している。

文化資源研究センターは、民博のいわゆる「博物館部門」に関するあらゆる業務の支援を担ってきた。本館が博物館機能をもった研究所であることを具現化するうえで不可欠な組織である。

私は2014年の4月より文化資源研究センター長の任にあたり、前年度までセンター長を務めていた朝倉敏夫教授の問題意識を引き継ぎ、館内の教員がより積極的に本館の博物館部門の業務に関わることを念頭においた運営を試みた。具体的には、文化資源運営会議が所掌する各部会が文化資源研究センター教員にかたよった構成にならないように配慮するとともに、館全体の自己点検報告書にも「博物館部門」に関わる将来的な課題を明記し、「博物館部門」に関する館内外の関心を高めることを意識した。

館員の間に「博物館部門」の業務に対する意識の差が生じていることは以前から指摘されてきた。一方で、個々の館員は文化資源プロジェクトを含めた文化資源関連事業を通して「博物館部門」の活動には少なからず携わってきた。プロジェクト制の導入は、教員の「博物館部門」離れではなく、一部の教員が「博物館部門」に共通した業務に取り組まざるを得なくなり、それが固定化されていく状況を生み出したとも言える。これは、教員だけの問題ではなく、情報管理施設を含めた機関全体の予算と人員削減による当然の結果であろう。

そうしたなかで、常設展示の新構築、特別展、企画展の開催、標本資料、映像音響資料の収集から保存、管理にいたる博物館資料の基盤構築、各種データベースの公開や資料のデジタル化やコンテンツ化を実現させてきたのは、文化資源のもつ求心力であり、民博がそれを尊重してきたからにはほかならない。

第2期中期計画は来年度で終了し、2016年度からは、第3期中期目標、計画に沿った文化資源の構築と活用について新たな枠組が求められていく可能性がある。これまで、文化資源研究センターならびに情報管理施設が中心となり培ってきたノウハウを生かしながら、博物館機能をもった研究所である民博の将来を見据えた対応が求められる。

（野林厚志）

調査・収集分野

調査・収集分野は、(1)標本資料・映像音響資料の収集、(2)標本資料・映像音響資料の整理・情報化、(3)標本資料・映像音響資料の利用・貸付、(4)収集・整理に関わる情報管理施設のプロジェクト的な業務に関する企画、調整を行なう。主な作業は、以下のとおりである。

- 1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材のプロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言
- 2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進
- 3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討
- 4) 「みんぱく映像民族誌」(DVD) の配付

2013年度の作業について、まず、1) 文化資源プロジェクトとして実行されるもののうち、収集・取材プロジェクト、ならびに資料整理・情報化プロジェクトの進行状況の点検と助言については、6,290点の標本資料を収集するとともに、1件の映像取材を実施し31点の映像番組と4点のマルチメディア番組、18点の展示記録映像を取得した。これら個別の案件については資料編を参照されたい。2) 標本資料の貸付、映像音響資料の利用の適否の検討と促進については、標本資料については、10機関に対して合計1,246点の資料の貸し付け利用があった。また、映像音響資料については、館内で87件(262点)、館外で49件(171点)の利用があった。3) 購入・寄贈等の案件の事前確認と検討については、個々に検討と調整を進めた。それぞれの案件については資料編を参照されたい。4) 「みんぱく映像民族誌」(DVD) の配付については、研究用映像資料等10作品を4枚のDVDに収納した「みんぱく映像民族誌」(第10集～第13集)を作成し、全国の国公立大学、都道府県中央図書館等のうち、604の機関に配付した。

また、収集・整理に関わる情報管理施設のプロジェクト的な業務として、標本資料・映像音響資料を適切に管理し、有効に活用するための事業をおこなった。詳細は資料編を参照されたい。

(日高真吾)

資料管理分野

資料管理分野では、文化資源の調査・収集から社会還元へのフローのうち、資料管理に関わる基礎研究、開発研究、そして事業を推進するための企画、調整を行う。2013年度は、1)「有形文化資源の保存・管理システム構築」(機関)(提案者:園田直子)と、2)「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究2」(提案者:日高真吾)、これらふたつの文化資源プロジェクトを実施した。

【文化資源プロジェクト】

1)「有形文化資源の保存・管理システム構築」

民博では研究の進展に伴い、毎年、各種の資料を集積している。本プロジェクトでは、これらの資料を体系的に管理するための調査や研究活動と、関連する活動や事業の企画、調整を行った。文化資源プロジェクトの枠内であるため年度ごとの申請となるが、毎年度計画を見直しなが、継続的かつ戦略的に進めている。

プロジェクトでは、保存科学研究の成果をもとに、1)有形文化資源の保存対策立案、2)資料管理のための方法論策定、これらを主軸とした開発研究と臨床実験を実施した。また、情報管理施設のプロジェクト的業務(標本資料関係は情報企画課、映像音響資料関係は情報システム課)と綿密な連携をとることで、総合的かつ長期的視点で全体計画を進めた。

【成果概要】

①有形文化資源の保存対策立案

総合的有害生物管理(IPM)の考えのもと、有形文化資源の生物被害防除・殺虫対策に関わる資料管理活動を企画、調整、総括した。このうち化学薬剤を用いない殺虫処理の実用化実験では、太陽熱を利用した高温処理の実用化のための基礎データを蓄積し分析するとともに、新設の多機能保管庫の処理室において二酸化炭素処理、低酸素濃度処理の初動実験を開始した。

②資料管理のための方法論策定

○博物館環境調査

- ・生物生息調査を年44回実施し、その結果を人間文化研究機構・連携研究で開発した生物生息調査分析システムを用いて分析することで防虫対策に役立てた。
- ・温度・湿度モニタリングを継続実施した。資料保存に携わる関連部署との間での空調連絡会を隔週開催し、空調に係わる情報と問題点の共有に努めた。東日本大震災以降、一般収蔵庫の一部で実施している節電対策の影響を、実測値をもとに検証し、資料管理上問題がないことを確認した。
- ・多機能保管庫の新設に伴い、空気清浄度調査を企画、実施し、その結果を検証した。
- ・特別展、企画展、あるいは本館展示場における新構築において、照度、温度・湿度等の各種環境調査を、逐次実施し、その結果をもとに改善策をたてた。
- ・原版フィルムを対象に酸性度調査を行い、その結果をもとに酢酸吸着フィルター棚に設置する等の対策をとった。(情報システム課のプロジェクト的業務参照)

○文化資源の保管体制の確立

- ・展示や収蔵用の包材に関する調査を継続実施し、データベースにまとめた。
- ・これらの包材を用いて、資料の保管・収納法を改良した。

○収蔵庫の狭隘化対策

- ・第3収蔵庫4079点の資料の配架見直し・再配架作業を実施した。（情報企画課のプロジェクト的な業務参照）
- ・特別収蔵庫（毛皮）において、取り出しにくい資料の収納方法を改善した。
- ・多機能資料保管庫の新設計画（人間文化研究機構・施設整備等整備事業費）の一環として大型資料配架に向けた予備調査を実施した。
- ・平成25年度から新たに33年計画で進めている第1収蔵庫改修計画（人間文化研究機構・施設整備等整備事業費）を、関連部署と作成した。

③その他

①と②で得られた知見や成果を、情報管理施設・情報企画課と情報システム課の資料管理業務に反映させることで、プロジェクトの研究的側面と、各課の日常的実践を有機的に連携させた。

2)「東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究2」

東日本大震災の文化財レスキュー事業の対象となった民俗資料が保管されている廃校を利用した一次保管場所の環境整備の方法論を策定することを目的としたプロジェクトである。具体的には、宮城県気仙沼市旧月立中学校文化財収蔵庫を対象に、総合的有害生物管理（IPM）による虫害対策、外光対策を行い、その効果を検証した。また、廃校を改修して収蔵施設とした新潟県村上市奥三面歴史交流館重要有形民俗文化財奥三面の山村用具収蔵庫との比較検証を行った。

（園田直子）

情報化分野

情報化分野では、(1)資料の整理・情報化とデータベースの作成・公開にかかわる文化資源プロジェクトや文化資源計画事業（以下、プロジェクト・事業）、(2)ビデオトークや電子ガイドをはじめ展示場における情報提供にかかわるプロジェクト・事業の支援を行っている。これらは、文化資源運営会議の資料収集・整理等専門部会、展示場情報システム専門部会と連携し、実際の作業にあたる情報システム課、情報企画課の協力のもとに進められる。

(1) 民博がもつさまざまな文化資源を整理・保管し、それらの情報を採録、データベースやデジタルアーカイブを作成して公開する2013年度の活動は次の4つに大別できる。

1) 資料の整理

情報化を前提として、写真やスライドをデジタル化し、その基本情報をテキストデータとして採録するプロジェクト・事業の実施を支援した。写真資料に関するものは、著作権の調査と譲渡手続、肖像権と一般公開の可否の検討もこれらのプロジェクト・事業に含まれている（資料編 情報化分野 資料1を参照）。

2) データベース、デジタルアーカイブの作成・データ追加と公開

データベースやデジタルアーカイブの作成と公開にかかわるプロジェクト・事業について、実施のためにさまざまな支援を行った（資料編 情報化分野資料1、2を参照）。

以下は、個々のプロジェクト・事業として必ずしも明確化されていたわけではないが、民博の情報化にとって重要な活動の一環として支援を行った。

3) 標本資料情報の点検と修正

標本資料情報に含まれる個人情報进行处理し、処理済みの情報を館外公開しているデータベースに追加した。また、付随する画像を点検し、画像の向きや表示順序、データベースでの使用／不使用、画像のアクセスレベルの修正を行った。

以上の過程で発見された、標本資料の文字情報や画像情報、寸法・重量情報を管理するそれぞれのシステムの不具合を修正した。

4) 統合検索システムとの連携

人間文化研究機構が運用する「統合検索システム」（データベース横断検索システム）に、「みんなのポジトリ」データベース（民博の機関リポジトリ）を追加し、一般公開した（2014年1月）。このデータベースのデータは、その元になる民博公開の「みんなのポジトリ」から定期的にデータを自動収集し、自動更新される。

また、人間文化研究機構の「人間文化研究の連携共同推進事業」（資源共有化推進事業経費）より予算を得て、「ジョージ・ブラウン・コレクション」データベース（日本語版）の文字情報を点検・修正、いくつかの情報を補ってより精度の高いデータベースに再構成した。また、収集地の位置（緯度経度）情報を今回新たに採録した。このデータベースは、2014年度のできだけ早い時期に民博および統合検索システムより公開する予定である。

今年度新たに民博で作成・公開したデータベースはなかったが、すでに公開しているデータベースにデータを追加・修正したものが少なくない（資料編 情報化分野 資料4を参照）。

また、「ギャロン語方言データベースの受入と公開」は、外部で作成されたデータベースを受け入れ、民博のサーバーから公開した初めての事例であった。データベースは動いてこそ意味がある。民博とは異なったシステム環境で開発されたデータベースを民博に移植し、さらにシステム更新を経ても継続して稼働させていくためには、受け入れ条件や受け入れ前後の調整方法など、より洗練すべき課題が残されている。

写真や映像を含むデータベースを館外公開するためには、撮影者や著作権継承者を特定し利用許諾や著作権譲渡の了承を得ること、写真に写っている人物の肖像権を考慮して公開の可否を検討することが必要である。これらは時間を要する作業であるが、地道に継続してできるだけ多くの情報を公開できるよう努力することが不可欠である。

ここ数年、受け入れた標本資料の情報化が滞っている。標本資料の情報化について人の体制も含めた抜本的な見直しが必要であろう。

来年度より、民博の大型プロジェクト「フォーラム型情報ミュージアムの構築」がスタートする。これと文化資源プロジェクト・事業をいかに連携させて成果を上げるか、また民博の情報化の中でこのプロジェクトをどう位置づけるかが今後の課題となろう。

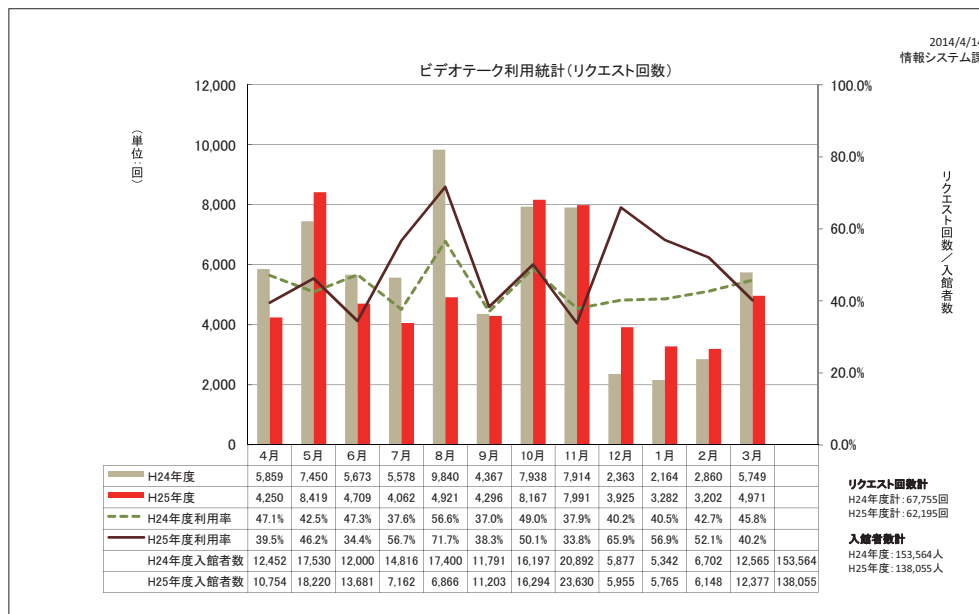
最後に、民博として今後どのような情報を作成し提供していくことが学界や社会に貢献することになるのか、長期の総合的な展望と戦略をたてることが依然として課題である。

（山本泰則）

- (2) 展示場における情報提供は、ビデオテーク、みんなく電子ガイドのほか、2011年度に新設された探究ひろばなどにおいておこなってきた。また、それぞれの展示チームの判断と責任により、いくつかの展示場においては、情報提供のための端末が展示の一部として設置されている。このうち、主にビデオテークとみんなく電子ガイドにかかわる事項について、情報システム課のサポートの下、文化資源研究センターの映像音響タスクフォースが中心となり、展示場情報提供システム専門部会と連携して、システムの運用および維持管理における諸問題の検討、本館展示の新構築に伴う新コンテンツ作成の計画と実施、次世代システムの検討と実験等をおこなった。

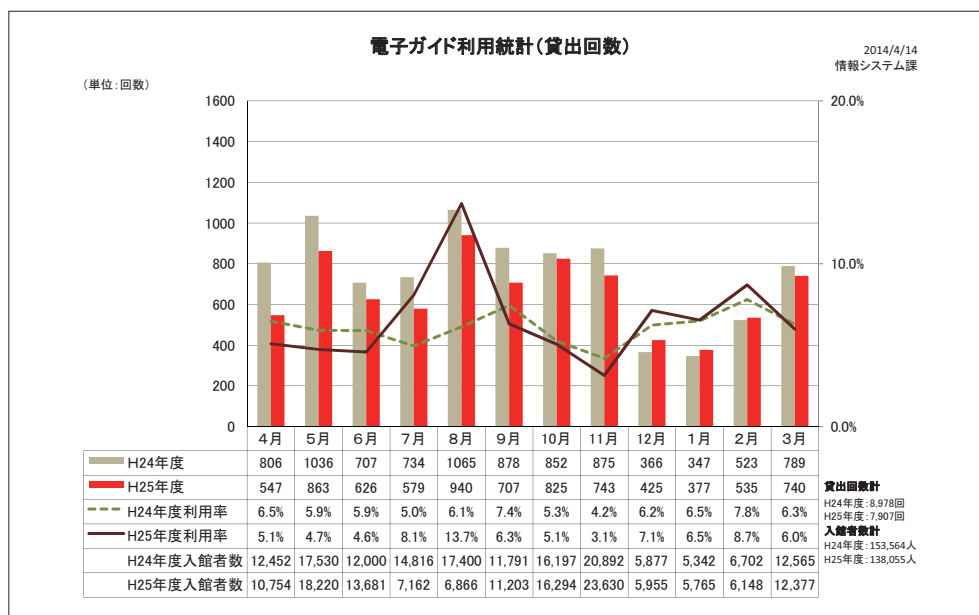
1) ビデオテーク関連

ビデオテークは、2012年3月に更新を行って以来、順調に運用を続けている。2013年度は、138,055人の本館展示入場者があり、のべ62,195回の番組リクエストがあった（図1）。また、多機能端末室のビデオテーク端末を、次世代のビデオテーク検討のための実験的な端末として位置づけ、その一環として、過去の特別展や企画展の記録映像をもとにしたマルチメディア番組の製作、および多機能端末室における公開を昨年度に引き続き進めた。また、ビデオテーク番組およびシステムの活用を進めるため、モバイル版ビデオテークシステムを試作した。これはノートパソコンを利用したシステムで、手軽に持ち運んでビデオテークを楽しむことができる。今後、より使いやすくするためのシステムの改良や、研究や教育を目的としたこのシステムの貸し出しなど、具体的運用の検討を進めたい。



2) みんなく電子ガイド関連

2013年度のみんなく電子ガイドの貸し出し件数は7,907回であり、入館者の約6パーセントにより利用された(図2)。また、2012年度に「日本の文化」展示の新構築が行われたことにとともに、同展示にかかわる新番組16本の製作を行い、既存の番組と合わせて、新構築後の同展示場の番組数は31本となった。それぞれの番組は、日本語版に加えて、英語、中国語、韓国語版を製作した。本館展示新構築の進展にとともに、2013年度末までに、アフリカ、西アジア、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、日本の文化の各展示について、44つの言語で新番組を製作し公開した。今後も継続的に多言語による番組製作を進める予定である。一方、インフォメーションスタッフ用のタブレット端末等において、無線LANを使った情報提供の実証実験を進めている。2013年度には、来館者用のコンテンツの試作も行い、問題点の洗い出しを行っている。



3) その他

展示場における本館の研究活動についての情報提供への要望が内外から寄せられたため、新たに研究情報展示システムを開発し、多機能端末室に設置した。大型（60インチ）のタッチパネルモニタを利用した装置と、車いすの利用者等を考慮した移動も可能な小型モニタ（20インチ）を備えた装置を同時に導入した。今後、本館の研究広報のあり方の検討の進展に合わせ、システムの改良を図る必要がある。

（福岡正太）

社会連携分野

文化資源研究センターの社会連携分野では、国内外の博物館や大学等との学術連携、ならびに、来館者をはじめとした一般利用者との社会連携、教員等の学校関係者との博学連携を通して、民博における文化資源を系統的、有機的に幅広く共同利用していくためのネットワークづくり、手法開発、試行的実践に取り組んできた。具体的には、館内における博物館社会連携専門部会、博物館学集中研修専門部会、情報企画課社会連携グループ等と連携をとりながら、館内教員が提案した「文化資源プロジェクト」と、大学共同利用機関としての共同利用基盤を整備するとともに、研究成果を普及することを目的とした「文化資源計画事業」を遂行してきた。

【文化資源プロジェクト】

1) 博学連携教員研修ワークショップ2013 in みんなく

民博の展示場や所蔵資料を教育活動に活用した具体的な実践例をもとに、博学連携のさまざまな可能性をさぐるためのワークショップを、学校の教員対象に実施した。ワークショップは学校の教員研修に適した夏休みに原則として行ない、ワークショップの実践とそれにもとづく議論を学校教員と民博のスタッフとの間で行なった。

2) カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施ならびに「アイヌ工芸 in みんなく」の開催

当館が所蔵するアイヌの標本資料に対して祈りの儀式（カムイノミ）を行い、併せて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を実施した。

さらに、この機会に工芸品製作の実演「アイヌ工芸 in みんなく」をおこない、より深くアイヌ文化に親しむ機会を提供した。

【文化資源計画事業】

1) 「みんなく」の新規および改訂版の制作

学習キット「みんなく」は、学校機関や各種社会教育施設を対象に、本館の研究成果をわかりやすく伝えることを目的とした学習キットであり、2014年3月現在で13種類22パックが用意されている。異文化との出会いにおいてどのようにものを見つめ、それらと語らうことができるのか、その先にある物語をどう読みとるのかという民博ならではのコンセプトで企画、設計されたものであり、総合学習への利用や民博見学に関わる事前、事後学習に活用されている。しかし、「みんなく」の中には損傷の激しいものや時代にあわなくなっているものがあるため、体系的に推進する方針を検討し、新規版「ソウルのこども時間」と改訂版「極北を生きる」の制作を実施した。また「ジャワ文化をまとう」の改訂版の制作をおこなっている。

2) ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

本館で行なわれる各種研究活動ならびに展示内容を、来館者を中心とした一般利用者により効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者から様々な意見や情報をフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を実施した。

3) ボランティア活動支援

本館に登録している 2 団体（みんなくミュージアムパートナーズ、地球おはなし村）の活動支援を行なった。みんなくミュージアムパートナーズ（通称 MMP）は、本館の博物館活動の企画や運営をサポートする自律的な組織として2004年 9 月に発足した団体で、館内で視覚障がい者を対象とした展示場案内、休日・祝日等のイベント企画とその運営、学校団体向けの展示場体験プログラムの企画とその運営といった、多岐に広がる活動を本館との協働で進めている。地球おはなし村は、2003年に本館で開催した特別展「西アフリカおはなし村」を契機とし、2005年10月に発足した団体である。館内における音楽活動や昔話の語り活動等を行っており、近隣の児童センター、小学校および児童福祉施設などでも広く活動を行なっている。両団体は、国立民族学博物館におけるボランティア活動を継続的に推進していて、当館にとって無くてはならない市民活動の場となってきた。両団体の活動内容の紹介や報告等を通じた交流も継続的に行なうほか、他組織とのボランティア交流会へも参加するなど、当館と市民をつなぐ結節点の一つとしての役割を果たしている。

（上羽陽子）

展示分野

文化資源研究センターにおいては、センター所属の教員が展示専門部会の部会長、その下部組織の特別展・企画展ワーキング・グループの主要メンバー、ならびに本館展示新構築総括チームのリーダー、展示場情報提供システム専門部会の部会長を務め、さらにその他のセンター教員もそれらの組織のメンバーとして活動するかたちで、民博の展示活動の企画・調整・支援に当たってきた。以下、「本館展示」、「特別展」、「企画展」、「その他」のそれぞれの分野に分けて、平成25年度の活動を報告する。

【本館展示】

平成25（2013）年度は、平成20年度から開始された本館展示新構築の第6年次にあたり、本年度は、日本の文化展示場のうち、「沖縄地方の暮らし」と「多みんぞく日本」のセクション、朝鮮半島の文化展示、中国地域の文化展示の新構築を進め、平成26年3月20日に一般公開した。

日本の文化「沖縄の暮らし」では、琉球王国の時代から、第2次世界大戦後のアメリカによる統治、日本への復帰、そして現在に至る沖縄の生活の変遷を、文化の交流という視点から動的に描き出す展示を実現した。また、日本の文化「多みんぞくニホン」のセクションでは、現在、約200万人の外国籍保持者が暮らす日本の現状を多民族社会と捉え、日本の生活・文化に適應する一方、自らの文化や言葉を継承して生きる人びとの姿を活写する展示を公開した。

「朝鮮半島の文化」の展示では、有史以前の東シベリアの諸民族とのつながり、その後の中国との交渉、そして近代における日本の植民地統治を経て、南北に分かれた分断国家としての近代化という歴史を通じて、朝鮮半島に暮らし人びとが築いてきた宗教、衣・食・住、あそびの文化、知の文化について、「伝統」「植民地／近代」「現代」という区分のもとに、その動態を紹介した。

また、「中国地域の文化」の展示では、多様な生活環境から生み出されたさまざまな民族の文化を、歴史や地域性をふまえ、生業、装い、楽器、住居、工芸、宗教と文字、漢族の婚礼や祖先祭祀、台湾の原住民族、華僑・華人をテーマに紹介する展示を作り上げた。

本年度の本館展示新構築の作業により、日本の文化の展示全体の更新が完了し、朝鮮半島の文化、中国地域の文化を合わせて、東アジアの展示全体が新たに生まれ変わったことになる。いずれも、当該地域の文化の歴史的変遷を踏まえつつ、現代における状況を、地球規模の文化の交流という視点から描き出す展示となっており、新構築の基本理念を明快に表現した展示が実現した。

【特別展】

平成25（2013）年には、飯田卓（先端人類科学研究部准教授）を実行委員長として、3月14日から6月11日の会期で、春の特別展として「マダガスカル 霧の森の暮らし」を開催した。この特別展では、民博所蔵の標本資料を活用して、マダガスカルでただひとつユネスコ無形文化遺産として登録されているザフィマニリ彫刻に関連する資料を展示し、マダガスカルにおける暮らしと、無形文化遺産の理念と現状を紹介した。会場では、無形文化遺産を紹介する工夫の一環として木彫りや組み編みを常時実演し、来観者が参加できる、体験型の展示空間が実現した。

また、平成25年9月19日から12月3日までは、秋の特別展として、「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic MUSEUM」を開催した。この特別展は、近藤雅樹（民族文化研究部教授）を実行委員長として準備が進められてきたものであるが、近藤教授が展示開幕直前に急逝された

ため、朝倉敏夫（文化資源教授）がその後、統括責任者として展示の実施にあたった。第二次世界大戦の戦中戦後に日銀総裁・大蔵大臣を歴任して敗戦後の日本復興に尽力した渋沢敬三は、私費を投じてアチックミュージアムを主宰して研究者の育成に献身したが、自らもまた研究者として民俗学の研究に従事した。民博は、その創設の際、アチックミュージアムのコレクション約2万点を受け継いでおり、渋沢敬三は、民博の祖の一人といっても過言ではない。平成25年は、渋沢敬三の没後50年の節目にあたり、本特別展は、その渋沢の業績を検証するとともに、調査研究成果の概要を展覧するものであった。この展示は、渋沢敬三の研究業績を広く周知・顕彰するとともに、身近な学問である民俗学を普及する貴重な機会となった。

なお、本展は、民博での開催後、埼玉県立歴史と民俗の博物館において、同館特別展として平成26年3月21日～5月6日に開催された。

【企画展】

民博では、特別展より規模が小さな、期間を限った展示を実施する場として、本館展示場の中に、企画展示場A（展示面積約290m²、大学共同利用型展示場）と企画展示場B（展示面積約130m²）の二つの展示スペースを設けている。平成25年度には、これらの展示場で、四つの企画展が実施された。

まず、平成25（2013）年5月2日から6月11日まで、企画展示場Bで朝倉敏夫（文化資源研究センター教授）の担当により企画展（国際連携展示）「アリラン——The Soul of Korea」を開催した。この展示は、韓国の国立民俗博物館で2012年に開催した「アリラン展」を世界に巡回する一環として、旌善アリラン研究所とも共同で実施したもので、韓国国外での展示開催の第1弾となった。アリランを通して、朝鮮半島に出自をもつ人びとの心や風土、歴史、文化などを広く紹介し、民族の魂を感じ取ってもらおうという目的から、この企画展に合わせて、アリランの公演も実施された。

これと時期の重なる平成25年5月23日から8月18日には、池谷和信（民族文化研究部教授）の担当により、企画展示場Aで、企画展「アマゾンの生き物文化」を開催した。山形県鶴岡市のアマゾン民族館・アマゾン自然館と民博との共同で実施したこの企画展では、アマゾン川をテーマでさかのぼるイメージで展示物が配列され、さらに民族資料とその資料の素材となっている動物の標本とが組み合わされて展覧されることにより、アマゾンの生き物、とくに動物と人とのかわりが立体的に理解できる展示が実現した。

平成25年7月11日から11月5日には、企画展示場Bにおいて、吉田憲司（文化資源研究センター教授）の担当で、企画展・人間文化研究機構連携展示「武器をアートに——モザンビークにおける平和構築」を公開した。モザンビークでは、1992年の内戦終結後も武器が民間に大量に残された。現在、その武器を農具と交換して回収するとともに、回収した武器を用いて平和を訴えるアートの作品を生み出すという、「銃を鋤に」というプロジェクトが進められている。この企画展では、民博が2012年に収集した作品と、このプロジェクトを支援してきた日本のNGO えひめグローバルネットワークの所蔵作品を一堂に展示し、モザンビークの人びとが進めるアートを通じた平和構築の営みと、その活動の日本とのつながりを紹介した。

続く平成25年9月12日から11月26日にかけては、企画展示場Aにおいて、野林厚志（研究戦略センター教授）の担当により、企画展「台湾平埔族の歴史と文化」を実施した。この展示は、台湾の国立台湾歴史博物館（台史博）と民博との国際連携展示として、台史博で先行して公開

された展示「看見平埔」を民博の企画展として開催したもので、近年、オーストロネシア系の先住民族と16世紀以降に増加した漢族系移民との相互作用を考えるうえで注目されている平埔族に焦点をあて、その歴史性と現代における民族アイデンティティの動向を紹介するものであった。この企画展は、台湾の人類学、歴史学の研究成果を公開するとともに、本館収蔵の関連資料がエスニシティに関わる歴史研究において海外からも注目されていることを示すものとなった。

【その他】

以上のほか、平成25年度には、多様な来館者がアクセスしやすく快適に観覧できるユニバーサルミュージアムの実現に向けて、吉田憲司（文化資源研究センター教授）と平井康之（客員教員・九州大学大学院准教授）の担当で、文化資源プロジェクトとして「博物館展示空間へのアクセスに関する実証的研究」を実施した。この研究では、民博を対象とし、展示空間だけではなく、最寄り駅から展示場までのアプローチを、多様なユーザー（来観者）の視点から調査し、評価をおこなった。そして、その結果をもとに、触地図やホームページ、サイン計画などの課題と要件をまとめ、アクセス・デザインの原案を制作した。とくに、音声案内機能を搭載したデジタル触地図に関しては、プロトタイプを完成させた。研究の成果は、逐次、本館展示新構築の内容に反映させていくこととしている。

（吉田憲司）

文化資源関連事業

【JICA との連携による博物館学コース】

民博は、2004年度以降、独立行政法人国際協力機構（JICA）から全面的委託を受けて、滋賀県立琵琶湖博物館とともに、集団研修「博物館学コース」を企画・運営している。このコースの目的は、博物館運営に必要な、収集・整理・保存・展示・教育に関する理論と実践的技術の研修を実施し、博物館を通して途上国各国の文化振興に積極的に貢献できる人材を育成するものである。

研修は、大きく、博物館専門家としての知識や技術の習得、日本の博物館の経験や知識の共有、そして博物館専門家同士が、国を越えて、自由に経験や知識、問題点や課題の検討などができる、そうした「フォーラムとしての場」を設けることをねらいにしている。「博物館学コース」は、博物館学を包括的に取り扱う研修となっていて、世界的にも類を見ない特徴のあるコースであり、研修参加者からの評価は高い。今後とも内容の充実をはかりながら、組織的に継続していきたい。

開設以降、名称や内容を発展的に変更しながら継続してきており、2012年度からは、博物館資料の管理について保安や防災のカリキュラムを強化するとともに、博物館の運営についても自らが立案し、実践・普及できるよう研修項目を増加して、観光関連分野との連携を視野に入れるなど研修内容を充実させた。名称も「博物館学」コースと改めている。研修には、毎年、世界の国や地域から約10名を受け入れ、研修期間は約4ヶ月間におよぶ。受け入れ側の講師は、合計70名ほどで対応している。

2013年度は、4月8日の来日、オリエンテーション、健康診断などの後、共通プログラムと個別研修プログラムを含めた本コースが、4月12日から7月19日にかけて実施された。

共通プログラム（10週間）は、博物館活動全般を理解するための講義・実習（表参照）と研修旅行からなる。各講義には、各研修参加者の国や博物館の特徴、問題点などの紹介と討論の時間を含めるなど、講師や各研修参加者との相互交流・情報共有を図るための工夫を加えている。

後半に設定された3週間の個別研修プログラムでは、研修員は、週ごとに希望の研修を選択する。テーマは、予防保存、展示デザイン、写真、資料の保存と修復、博物館と地域コミュニティー、民族誌映像の撮影と編集、考古資料の発掘と保存管理、地域歴史博物館の運営（マネジメント）、記録とデータベースの9テーマである。

個別研修プログラムは専門性が高く、多くの機関の協力を得ながら実施した。いずれのプログラムも研修員の満足度は高く、個別研修期間の延長を求める意見が聞かれた。

2013年度の研修旅行は、東北、東京、広島、奈良であった。週末などに自主的に見学した博物館等を含めると、研修参加者は日本での研修期間中に多くの施設を訪れたことになり、これを通じて日本の博物館事情や文化を理解してもらった素地ができたものと考えられる。

研修参加者には、自国の博物館事情等を紹介するミュージアムレポート、自身の専門に関する専門レポート、研修期間の最後に帰国後の普及計画を発表するファイナルレポート（普及プログラム案）などの発表の場が用意された。専門レポートは、自身の専門について関連する講義の中で報告するもので、自身の経験と問題点を、他の研修参加者及び日本側の関係者が学び、相互に議論する好機となった。また、ファイナルレポートでは、各研修参加者は、制度的・予算的に実現可能な普及プログラム案の策定に取り組み、本コースの成果が母国に順次、普及されることが期待できる内容であった。JICAでは、研修終了から半年以内にその成果や進捗状況を検証することとなっている。

2013年5月25日には、民博において、ミュージアムレポートをさらに一層、展開させた公開フォーラム「世界の博物館 2013」が開催された。一般参加者47名と関係者30名、計77名の人が集い、普段なかなか知る機会のない、7カ国の博物館事情に関する報告を聞くことができた。この公開フォーラムは、また、終了後に開かれた交流会とともに、研修参加者と一般の人びとや博物館関係者、学生が直接、交流できる貴重な場となった。

コースの参加資格は、原則として25歳以上45歳以下、大学卒業もしくは同等の学力を持ち、収集、ドキュメンテーション、保存、展示、教育などの博物館活動での実務経験を3年以上有し、研修内容を十分に理解できる英語能力を備えている者である。これらの条件を満たした、以下の7カ国から計10名が参加した。

アルメニア	Mr. BADALYAN Armen	アレクサンドル・スペンジアリアン記念館
アルメニア	Mr. ORBELYAN Gevorg	エレバン博物館
エクアドル	Ms. REGALADO PINTO Johanna Gissela	文化省文化部
エクアドル	Ms. ROLDAN MONSALVE Virginia Janneth	
		アメリカ大陸民芸工芸センター
エジプト	Mr. Moamen Mohamed OTHMAN ABDELGHANY	
		大エジプト博物館保存修復センター
エジプト	Ms. Asmaa Ahmed MAHMOUD MEAWED	大エジプト博物館
グアテマラ	Ms. GUERRA RUIZ Jenny Lizeth	国立グアテマラ考古民族博物館
ミャンマー	Ms. Myo Myint Myint San	マンダレー文化博物館
パレスチナ自治政府	Mr. IKHLAWI Jamal A. H.	観光考古省博物館開発部
ペルー	Ms. MOLINA GONZALES Sonia Valentina	文化省博物館部

【国際的ネットワーク】

「博物館学」コース（2012年度、2013年度実施）と、その前身である「博物館学集中コース」（2004～2011年度、8回実施）、さらにその前進となるJICA「博物館技術（収集・保存・展示）研修コース」（1994～2003年度、10回実施）の修了者は、JICA 研修参加者180名、民博の外来研究員26名、あわせて55の国・地域から206名に達している。民博にとって貴重な財産といえる海外の博物館とのネットワークが、2013年度の研修によりさらに充実した。

なお、本コースのニュース・レターとして2013年8月に発行した下記の刊行物に、より詳細な記録が掲載されている。

Steering Committee for the Comprehensive Museology Course, *Museum Co-operation 2013: Newsletter of the Comprehensive Museology Course*, National Museum of Ethnology, Japan, 2013.

（園田 直子・博物館学研修専門部会長）

資料編

調査・収集分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：19～21世紀アメリカ合衆国におけるキルト標本資料収集

提 案 者：鈴木七美 研究戦略センター

事業の概要：アメリカ合衆国におけるキルトの特徴、その文化的背景、そして最近の変遷に関する情報提示（展示）を念頭におき、色・パターンおよび用途において明確なジャンルを形成してきたアーミッシュ・キルトを中心に、19～21世紀キルト標本資料を75点収集した。

2. プロジェクト名：現代の沖縄文化に関する資料の収集および日本の移民関連の映像取材

提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：沖縄研究資料の充実化及び日本展示新構築の沖縄展示における展示資料としての活用を見据えて、伝統工芸品である琉球漆器および、近現代沖縄に関する資料として、アメリカと沖縄の関係性を示す資料の収集をおこなった。また、日本在住の移民を対象とした映像取材をおこなった。

3. プロジェクト名：南アジア展示場新構築のための標本・映像音響資料収集

提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター

事業の概要：平成26年度に実施予定の南アジア展示場の新構築に向け、国立民族学博物館が所蔵する南アジア地域に関連する標本・映像音響資料を戦略的に充実させるため、ネパールの婚礼に関する映像音響資料収集及び標本資料収集、ネパールの伝統的手工芸に関する標本資料収集、ブータンの山地民の生活に関する資料収集、南アジアの染織に関する標本資料収集、南アジアの都市の生活文化に関する標本資料収集、南アジアの宗教伝統の多様性に関する標本資料収集等を実施した。

4. プロジェクト名：東南アジア展示新構築に向けての資料収集

提 案 者：信田敏宏 文化資源研究センター

事業の概要：東南アジア展示新構築のテーマである「東南アジアの1日」を実現するために必要不可欠な資料を、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム、ラオス等において収集した。各国の収集資料の内容は、マレーシアではイスラームファッション、ハラール製品、先住民の民族工芸品等の資料、タイでは仏教寺院関連の資料、インドネシアでは芸能およびイスラーム関連の資料、ベトナム・ラオスでは生活空間および娯楽具の資料である。

5. プロジェクト名：中央・北アジア展示新構築のための資料収集

提 案 者：藤本透子 民族文化研究部

事業の概要：国立民族学博物館において、収集が活発におこなわれてこなかった中央アジア資料を対象とした収集活動をおこなった。ここでは、カザフスタンの牧畜文化と日常生活に関わる資料、ウズベキスタンの織機と布文化資料、イスラーム・儀礼関連資料、音楽関連資料、社会主義関連資料などを中心に、合計113点を収集した。

資料2. 文化資源計画事業

1. プロジェクト名：写真資料「大島襄二コレクション」寄贈受入

提 案 者：久保正敏 文化資源研究センター

事業の概要：大島襄二氏が1967年～1991年にかけてアジアや大洋州などを調査した時の記録写真（スライド8,776枚）の寄贈を受け入れた。

2. プロジェクト名：標本資料「エジプト資料」の寄贈受入

提 案 者：山中由里子 民族文化研究部

事業の概要：エジプトを代表するベリーダンサー、ダンダシュから、来日の際に衣装を寄贈いただき、受け入れた。西アジア展示場に展示されていた2000年収集の衣装と定期的に入れ替えながら活用する。

3. プロジェクト名：標本資料「行徳モスク（千葉県）所蔵資料」の寄贈受入

提 案 者：菅瀬晶子 研究戦略センター

事業の概要：2012年度末に調査に訪れた行徳モスクより、モスクの日曜学校に通う子どもたちによる貼り絵やぬり絵、モスクに通う人びとが日常的に身に着けている衣服などの資料の寄贈を受け入れた。

4. プロジェクト名：郷土玩具の展示映像の受入とビデオテークでの公開

提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：2013年度に新構築した日本の文化展示の関連映像として、2006年度に制作した郷土玩具関連の映像番組6本を寄贈し、情報システム化の協力のもと、マルチメディア番組としてビデオテークに新たに追加した。

5. プロジェクト名：松尾三憲旧蔵絵葉書コレクションの追加寄贈受入

提 案 者：久保正敏 文化資源研究センター

事業の概要：松尾三憲氏のご遺族の方から絵葉書が1点見つかったとの連絡があり、松尾三憲旧蔵絵葉書コレクション（松尾三憲氏が1919年から1923年までの海軍在職中に訓練航海の途上訪れた現地で買い求めた絵葉書）の追加分として寄贈を受け入れた。

6. プロジェクト名：標本資料「ロシア連邦トゥバ共和国の弦楽器（イギル）資料」の寄贈受入
提 案 者：小長谷有紀 民族社会研究部
事 業 の 概 要：2013年9月8日に実施した「のど歌のふるさと」のために来日したトゥバ共和国等からの演奏家一行を率いるモングンオール・オンダール氏は、演奏家であるとともに楽器製造者であり、みずから制作したイギルと呼ばれる弦楽器を寄贈いただき、受け入れた。
7. プロジェクト名：標本資料「ネパール砂絵マンダラ資料」の寄贈受入
提 案 者：三尾 稔 研究戦略センター
事 業 の 概 要：「マンダラ展」の巡回展示の際に作成された砂絵マンダラならびにその製作過程を記録した映像（DVテープに記録されている）を受け入れた。また、展示の際の上映用に編集されたDVDも存在したため、参考資料として受け入れた。
8. プロジェクト名：標本資料「チベット衣服、中国経典等資料」の寄贈受入
提 案 者：横山廣子 民族社会研究部
事 業 の 概 要：平成25年度末にオープンした中国地域の文化の展示場において展示活用するため、チベット衣服、中国経典等の受け入れをおこなった。
9. プロジェクト名：標本資料「パプア・ニューギニア、セピック河・ラム川流域関係民族誌資料」の寄贈受入
提 案 者：吉田憲司 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：東京工業大学名誉教授・飯島茂氏所蔵のパプア・ニューギニア、セピック河・ラム川流域で収集された、仮面、彫像等計49点の寄贈受け入れをおこなった。当該資料は、パプア・ニューギニアでも仮面や彫像の制作・使用が最も盛んなセピック河・ラム川流域で1950年代から60年代にかけて飯島茂氏の父君が収集されたものであり、日本における同地域の資料としては最も古い時代の資料といってよい。また、その多くが、実際の儀礼に用いられた資料である点でも、民族誌資料としての価値が高い。
10. プロジェクト名：標本資料「中国衣類資料」の寄贈受入
提 案 者：横山廣子 民族社会研究部
事 業 の 概 要：平成25年度末にオープンした中国地域の文化の展示場において展示活用するため、中国衣類資料の受け入れをおこなった。
11. プロジェクト名：標本資料「中国の漢族の生活資料」の寄贈受入
提 案 者：韓 敏 民族社会研究部
事 業 の 概 要：平成25年度末にオープンした中国地域の文化の展示場において展示活用するため、中国の漢族文化に関する標本資料、携帯用茶飲みセット（1点）、麺類を表す漢字のマグカップ（1点）、子孫桶（トイレ）用ブラシ（1点）、

と客家土楼の模型（1点）を寄贈を受け入れた。

12. プロジェクト名：標本資料「バヌアツ共和国ペンテコスト（ラガ）島のパンダナスの葉製マット資料」の寄贈受入

提 案 者：林 勲男 文化資源研究センター、須藤健一 館長

事業の概要：吉岡政徳先生（神戸大学）より、バヌアツ共和国ペンテコスト（ラガ）島のパンダナスの葉で作成されたマット3枚の寄贈を受け入れた。当該資料は、ペンテコスト島では、伝統的財として様々な儀礼的交換や罰金の支払いなどにも用いられる。類別的父や父方オバには、子どもが頭に載せて渡すというように親族関係とも関わるものである。

13. プロジェクト名：標本資料「財日本繊維意匠センター旧蔵の繊維産業関連資料」の寄贈受入

提 案 者：吉本 忍 民族文化研究部

事業の概要：第2次世界大戦後の日本の繊維産業の輸出振興をおもな目的として1955年に設立された日本繊維意匠センターが収集し、作成したプリント布をはじめとする繊維製品の見本裂を貼付した標本資料の寄贈受入をおこなった。

14. プロジェクト名：標本資料「多みんぞくニホン：韓国、中国、南米等移民資料」の寄贈受入

提 案 者：庄司博史 民族社会研究部

事業の概要：2014年3月日本の文化展示に新設した「多みんぞくニホン」コーナーのために、韓国、中国、南米等の出身者から寄贈の申し出のあった移民に関する標本資料を受け入れた。

15. プロジェクト名：標本資料「沖縄地域関連資料」の寄贈受入

提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター

事業の概要：2013年度新構築の対象となる日本の文化展示場のうち、沖縄地方のくらしセクション内、「シマのくらし」の展示資料として寄贈受け入れをおこなったものである。受け入れをおこなった資料のうち、人生儀礼関係資料として受け入れたトゥーカキは、88歳の米寿のお祝いである斗搔き祝いで床の間に飾られるとともに、引き出物として祝い客に配られるものである。またスিজガイは、イエの魔よけとして玄関先に飾られるものである。

16. プロジェクト名：写真資料「佐々木高明コレクション」の寄贈受入

提 案 者：池谷和信 民族文化研究部

事業の概要：佐々木高明氏が1950年代～2000年前後にかけて日本、東南アジア、南アジアなどを対象にして調査した時の記録写真の寄贈を受け入れた。その内訳は、ネガ（900×30枚）：27000枚、カラースライド：13000コマの合計で4万枚となる。

17. プロジェクト名：写真資料「東南アジア写真コレクション」の寄贈受入

- 提 案 者：田村克己 民族社会研究部
共 同 提 案 者：桎永真佐夫 研究戦略センター
事 業 の 概 要：提案者が1970年代後半～2000年前後にかけて東南アジア・東アジアを対象
にして調査した時の記録写真（デジタル化済み）の寄贈を受け入れた。
18. プロジェクト名：標本資料「インドネシア、インド、イラン染織品資料」の寄贈受入
提 案 者：吉本 忍 民族文化研究部
事 業 の 概 要：インドネシア、インド、イランで入手された総計29点の染織品を本館の標
本資料として受け入れた。
19. プロジェクト名：標本資料「モンゴル女性用衣装資料」の寄贈受入
提 案 者：小長谷有紀 民族社会研究部
事 業 の 概 要：青年海外協力隊員としてモンゴルで絵画教師をしていた女性による、私的
なコレクションのうち、最も古くて貴重であり、保存の難しいモンゴル伝
統衣装（女性用）について、受け入れた。
20. プロジェクト名：標本資料「中国地域チベット仏教関連資料」の寄贈受入
提 案 者：横山廣子 民族社会研究部
事 業 の 概 要：平成25年度末にオープンした中国地域の文化の展示場において展示活用す
るため、中国地域チベット仏教関連資料の受け入れをおこなった。
21. プロジェクト名：標本資料「タンザニア木彫資料」の寄贈受入
提 案 者：吉田憲司 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：当該資料は、1983年に当時の皇太子殿下（今上天皇陛下）が、国際親善の
ためにタンザニア連合共和国を訪問された際に、皇太子殿下に東宮大夫と
して同行された安嶋彌氏にジュリウス・ニエレレ初代大統領より送られた
木彫である。世界の民族文化を研究する博物館としての当館への寄贈を希
望され、その受け入れをおこなった。
22. プロジェクト名：標本資料「独立行政法人日本万国博覧会記念機構所蔵コレクションの寄贈
受入
提 案 者：日高真吾 文化資源研究センター
事 業 の 概 要：独立行政法人日本万国博覧会記念機構の大阪府への移管にともない、機構
が所有する各国パビリオン寄贈資料と世界民族資料調査収集団収集資料を
すでに寄託されていた関連資料とともに受け入れた。
23. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館
との交流事業
提 案 者：朝倉敏夫 民族社会研究部
事 業 の 概 要：韓国国立民俗博物館との交流協定に基づき、第2期3年計画の1年目とし

て安東大学、梨花女子大学、韓国学中央研究院・ソウル芸術大学の3チームを選抜し、映像人類学に関する研修を行い、作品を制作した。

資料3. 情報管理施設のプロジェクト的な業務

1. プロジェクト名：標本資料の撮影等業務

提 案 者：情報企画課

事業の概要：標本資料を研究、展示、情報提供等に有効利用するために、5,233点の標本資料の撮影、計測、画像の利用及びそれらに付随する業務をおこなった。

2. プロジェクト名：みんぱく映像民族誌の作成及び配付

提 案 者：情報システム課

事業の概要：民博製作のビデオテープ番組や研究用映像から10本を選び、みんぱく映像民族誌第10集～第13集として4枚のDVDにまとめた。これを800セット分プレスし、609カ所の図書館や研究機関等に配付した他、テーマに応じ、個別のDVDを学会等に配付した。

3. プロジェクト名：金属原盤の整理

提 案 者：情報システム課

事業の概要：本館所蔵の音響資料である金属原盤に、前年度調査を行った結果から媒体番号（7,629件）を付与し、レコードケースに記入した。また、福岡准教授を中心として進められてきた調査研究の成果である金属原盤のデータベースにも媒体番号を入力した。

4. プロジェクト名：アーカイブズ資料の整理

提 案 者：情報システム課

事業の概要：アーカイブズ資料として受け入れた「欧米博物館所蔵アイヌ資料調査記録」等に含まれる写真資料のポジフィルム（20,939コマ）とネガフィルム（31,510コマ）にコレクション番号を付与し、各専用収納包材に収納後、映像音響資料収蔵庫に保管した。

5. プロジェクト名：標本資料の情報化プロセスの再構築とデータベースの公開

提 案 者：情報企画課

事業の概要：標本資料詳細情報データベースの校閲・入力（28,907件）、標本資料目録情報データベースの追加・校閲・入力（85,334件）、標本資料画像データの校閲（22,913件）、記事索引データベースのデータ追加入力・校正（8,500件）の作業をおこなった。

情報化プロセスの再構築に向けて検討を進め、以下の基本方針を固めた。

- 標本詳細情報データベースのカード通番 2 桁を廃止する。これにより、システムの複雑さが軽減される。
 - 管理情報及び公開情報（目録・詳細情報）のマスターデータを一元化する。
 - 受入作業時の写真や収集カード（Excel）を一元管理する。
- 平成26年度内に、受入→標本番号確定→付け札作成→資産登録（仮登録含む）機能を開発する。

資料管理分野

資料1. 文化資源プロジェクト（機関）

プロジェクト名：有形文化資源の保存・管理システム構築

提 案 者：園田直子

事業の概要：保存科学の見地から、資料管理に係る基礎研究と開発研究、ならびに関連の事業を企画、実施、総括した。有形文化資源の保存対策立案では、総合的有害生物管理（IPM）の考えのもと、有形文化資源の生物被害防除・殺虫対策を実施した。資料管理のための方法論策定では、博物館環境調査を計画的に実施し、その結果を分析し、文化資源の体系的な管理につとめた。収蔵庫の狭隘化対策として、収蔵資料の保管・収納方法の改善に段階的に取組んだ。昨年度より実施している多機能資料保管庫新設と第1収蔵庫改修（人間文化研究機構・施設整備等整備事業費）計画の企画、調整を引きつづき行った。

プロジェクト名：東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究2

提 案 者：日高真吾

事業の概要：東日本大震災の文化財レスキュー事業の対象となった民俗資料を保管している廃校を利用した一時保管所の環境整備の方法論の策定を目的とした。一時保管所の運用について、施設内のIPM活動や直射日光対策について提言し、その活動の効果を明らかにした。

資料2. 情報管理施設のプロジェクト的な業務

プロジェクト名：第3収蔵庫収蔵資料の配架見直し及び再配架作業

提 案 者：情報企画課

事業の概要：第3収蔵庫の資料4,079点の配架見直し及び再配架作業を行い、標本資料の収蔵状況を改善し、新たな配架空間を確保した。

プロジェクト名：日本展示撤去資料の点検・クリーニング・再配架及びデータ整理作業

提 案 者：情報企画課

事業の概要：「日本の文化」展示の撤去資料447点の点検を行い、長期間展示されていた資料に関する情報データ作成及び適切なクリーニングを行い、収蔵庫に再配架した。

プロジェクト名：標本資料の補修・保存処理

提 案 者：情報企画課

事業の概要：平成25年度の新構築に選定された資料116点、ならびに特別展示等の展示に選定された資料、緊急に補修する必要がある資料等の補修を行い、資料を良好な状態で展示し活用した。

プロジェクト名：画像データのメタデータ作成・登録

提案者：情報システム課

事業の概要：本館所属の PhotoCD から媒体変換した画像データのうち約49,000点、及び写真をデジタル化した画像データ約20,000点をサーバーに登録するためのメタデータを作成し、登録作業を行った。これにより、約300,000点の登録が完了した。

プロジェクト名：ビデオテープの複製

提案者：情報システム課

事業の概要：本館所蔵の映像資料である D3 テープは、再生機器の老朽化により、早急な媒体変換が必要となっている。本年度は、D3 テープ257本を XDCAM (PD128：87枚、PD50：23枚) へ複製を行った。

プロジェクト名：フィルムの酸性度調査

提案者：情報システム課

事業の概要：本館が取材を行い作成した作品の原版フィルム704本を対象に酸性度調査を実施した。その結果、劣化のすすんでいるフィルム3本は、保管庫に設置している酢酸吸着フィルター棚に一定期間置き、酸性ガスを発散させる処置をとった。

情報化分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. プロジェクト名：「沖守弘インド民族文化写真資料アーカイブ」のデータベース作成

提 案 者：三尾 稔

計 画 年 次：3年計画の1年目

事業の概要：上記のアーカイブ資料に含まれるスライド写真のデジタル化を実施した。別経費（地域研究推進経費）で、デジタル化の一部とスライド写真に関するテキスト情報の作成を進めた。

2. プロジェクト名：世界の布文化データベースの構築

提 案 者：久保正敏

計 画 年 次：3年計画の3年目

事業の概要：民博に収蔵されている身装（身体と装い）関係資料のうち、成形されていない布地標本（例：サリー、腰布）の素材、文様デザイン、染織技法等を中心に、フィールドで得られた写真と連動しながら、地域（民族の居住地域等の区分に基づく8地域）毎にデータベース化を行った。さらには、民博標本資料データベースと、身装文献データベースとのリンクを実現した。

3. プロジェクト名：オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真データベースの情報充実とインターフェース改善

提 案 者：久保正敏

計 画 年 次：単年度

事業の概要：「オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真データベース」を館内公開したが、情報を追加し、更に充実して、カテゴリ検索と検索用ユーザ・インターフェースの改善をおこなった。同時に原資料の保存管理方法を確立した。

4. プロジェクト名：京都大学学術調査隊関連資料の整理とデータベース作成

提 案 者：吉田憲司

計 画 年 次：3年計画の2年目

事業の概要：2012年度に民博のデータベース検索システムより館内公開した「京都大学学術調査隊写真コレクション」に、2012年度デジタル化した5216点をテキスト情報と共に追加した。各撮影者または、著作権継承者のとの間で著作権全面譲渡の覚書の締結処理を進めたうえ、民博のデータベース検索システムより館内公開した。さらに、「京都大学学術調査隊写真コレクション」に7,644点ある京都大学探検部トンガ王国探検隊資料を民博のデータベー

ス検索システムに追加して館内公開した。

5. プロジェクト名：東大資料の目録（『土俗品目録』）のデータ化

提 案 者：佐々木史郎

計 画 年 次：2年計画の1年目

事業の概要：本館収蔵の東京大学理学部人類学教室旧蔵資料（Kで始まる番号の資料）の原簿（『土俗品目録』）をスキャンしてデジタル化するとともに、そこに記されている内容を本館の標本資料学術データベースと照合できるよう入力作業を進めた。

資料2. 文化資源計画事業

1. 事業名：ギャロン語方言データベースの受入と公開

提 案 者：山本泰則

計 画 年 次：単年度

事業の概要：長野泰彦本館名誉教授と Marielle Prins 博士が作成し本館に寄贈された、中国四川省の西北部で話されるギャロン系諸語のデータベース（音声を含む）を受け入れ、2013年7月に本館のサーバよりインターネットに一般公開した。

資料3. 公開したデータベース

1. rGyalrongic Languages（ギャロン系諸語）[英語、中国語]

長野泰彦本館名誉教授と Marielle Prins 博士が編集した、中国四川省の西北部で話されるギャロン系諸語のデータベース（音声付き）。81の方言ないし言語それぞれについて、426または1,200の語彙項目と200文例を収録している。2013年7月、インターネットに公開。〔語彙：合計39,826語 文例：合計15,706件〕

資料4. 情報を修正・追加したデータベース

(2014年3月31日現在)

1. 標本資料目録データベース

13,741件のデータを追加して、合計277,206件をインターネットに公開。

2. 標本資料詳細情報データベース

2,606件のデータを追加して、合計264,406件を館内公開。内インターネット公開分は、前年度から2,612件を追加して、合計49,808件。

3. 標本資料記事索引データベース

6,138件のデータを追加して、合計50,661件をインターネットに公開。

4. 映像資料目録データベース

28件のデータを追加して、合計7,881件をインターネットに公開。

5. ビデオテークデータベース

18件のデータを追加して、合計644件をインターネットに公開。

6. オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真

前年度より20件を非公開とし、合計7,999件を館内公開。

7. 京都大学学術調査隊写真コレクションデータベース

すでに館内公開している「京都大学アフリカ学術調査隊」(1961～1967)撮影写真に4,735点を追加。また新たに、「京都大学探検部トンガ王国探検隊」(1960年)撮影写真7,620点を加え、合計24,018件のデータを館内公開。

8. 図書・雑誌目録データベース

図書は、6,330件のデータを追加して合計656,115件をインターネットに公開。雑誌は、150タイトルのデータを追加して合計16,908タイトルのデータをインターネットに公開。

9. 衣服・アクセサリデータベース

1,908件のデータを追加して、合計21,485件をインターネットに公開。

10. 身装文献データベース

7,897件のデータを追加して、合計159,766件をインターネットに公開。

資料5. 編集した研究用映像資料（文化資源プロジェクト）

1. プロジェクト名：中国雲南省ペー族の社会と文化を描くビデオテーク用映像番組の編集

番組タイトル：「雲南省大理ペー族自治州大理市周城村」

担当教員：横山廣子（民族社会研究部）

2. プロジェクト名：中国福建省映像取材資料による番組作成

番組タイトル：「漢族の祖先祭祀——福建省南部における一事例」

担当教員：韓 敏（民族社会研究部）

3. プロジェクト名：現在公開を停止しているビデオテープ番組の再開とみんなく映像民族誌
DVD 配付のためのビデオテープ番組の内容修正

番組タイトル：「1694年の涙；ニクラ修道院・生神女就寝祭」

担当教員：新免光比呂（民族文化研究部）

資料6. 編集したビデオテープ短編番組とマルチメディア番組（文化資源プロジェクト）

1. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作

番組タイトル：「ボランティアが見た2012年韓国の大統領選挙

——キム・シヨンさんの選択」（短編番組）

担当教員：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

2. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作

番組タイトル：「2012年 安東権氏 時祭」（短編番組）

担当教員：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

3. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作

番組タイトル：「牛と共に」（短編番組）

担当教員：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

4. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作

番組タイトル：「현대 한국의 결혼 준비 과정 '스트레스를 아시나요?」（短編番組）

担当教員：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

5. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作

番組タイトル：「2014 설날 풍경 —윤수중씨 덕의 설차레—」（短編番組）

担当教員：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

6. プロジェクト名：「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作

番組タイトル：「한국인의 수능문화 —대학입시를 준비하는 특별한 방법—」（短編番組）

担当教員：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

7. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成

番組タイトル：「トゥバの人々 トゥバ共和国編」（短編番組）

- 担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
8. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「トゥバの人々 中国編」（短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
9. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「トゥバの人々 モンゴル編」（短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
10. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「トゥバの人々 ロシア 中国 モンゴル」（短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
11. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：Тувинцы из Тувинской республики（ロシア語版、短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
12. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「图瓦人 图瓦共和国」（中国語版、短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
13. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：Тувачууд. Бүгд Найрамдах Тува Улс（モンゴル語版、短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
14. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：Тувинцы из Китайской Народной Республики（ロシア語版、短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
15. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「图瓦人 中国篇」（中国語版、短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
16. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：Тувачууд, БНХАУ（モンゴル語版、短編番組）
担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）
17. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成
番組タイトル：Тувинцы, проживающие на территории Монголии

(ロシア語版、短編番組)

担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）

18. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成

番組タイトル：「图瓦人 蒙古篇」（中国語版、短編番組）

担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）

19. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成

番組タイトル： *Тувачууд, Монгол улс*（モンゴル語版、短編番組）

担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）

20. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成

番組タイトル： *Тувинцы в РФ, КНР, Монголии*（ロシア語版、短編番組）

担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）

21. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成

番組タイトル：「图瓦人 俄罗斯、中国、蒙古国」（中国語版、短編番組）

担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）

22. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成

番組タイトル： *ОХУ, БНХАУ, Монгол улсад амьдарч буй тувачууд*（モンゴル語版、短編番組）

担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）

23. プロジェクト名：トゥバ映像取材資料による番組作成

番組タイトル： *Tuvan People in Russia, China and Mongolia*（英語版、短編番組）

担 当 教 員：小長谷有紀（民族社会研究部）

24. プロジェクト名：中国雲南省ペー族の社会と文化を描くビデオテーク用映像番組の編集

番組タイトル：「雲南省ペー族の楽土」（短編番組）

担 当 教 員：横山廣子（民族社会研究部）

25. プロジェクト名：中国雲南省ペー族の社会と文化を描くビデオテーク用映像番組の編集

番組タイトル：「雲南省周城村の春節」（短編番組）

担 当 教 員：横山廣子（民族社会研究部）

26. プロジェクト名：長浜曳山祭りの短編映像番組の製作

番組タイトル：「長浜曳山まつり」（短編番組）

担 当 教 員：笹原亮二（民族文化研究部）

27. プロジェクト名：中国福建省映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「漢族の祖廟——中国福建省南部」（短編番組）
担当教員：韓 敏（民族社会研究部）
28. プロジェクト名：中国福建省映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「福建省安溪県の烏龍茶 鉄観音」（短編番組）
担当教員：韓 敏（民族社会研究部）
29. プロジェクト名：中国福建省映像取材資料による番組作成
番組タイトル：「客家のふるさと 福建土楼」（短編番組）
担当教員：韓 敏（民族社会研究部）
30. プロジェクト名：研究公演「遠い記憶、呼びさます声——ダナンマル家の南インド古典声楽」
にもとづくビデオテーク番組の作成
番組タイトル：「遠い記憶、呼びさます声——ダナンマル家の南インド古典声楽」（マルチメディア番組）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
31. プロジェクト名：研究公演「遠い記憶、呼びさます声——ダナンマル家の南インド古典声楽」
にもとづくビデオテーク番組の作成
番組タイトル：*Voices of Distant Memories : South Indian Classical Music of the Vina Dhanammal Lineage*（英語版、マルチメディア番組）
担当教員：寺田吉孝（先端人類科学研究部）
32. プロジェクト名：研究公演「のど歌のふるさと」にもとづくビデオテーク番組の作成
番組タイトル：「のど歌のふるさと」（マルチメディア番組）
担当教員：小長谷有紀（民族社会研究部）
33. プロジェクト名：郷土玩具の展示映像の受入とビデオテークでの公開
番組タイトル：「紙芝居で語る郷土玩具」（マルチメディア番組）
担当教員：日高真吾（文化資源研究センター）
34. プロジェクト名：現在公開を停止しているビデオテーク番組の再開とみんなく映像民族誌
DVD 配付のためのビデオテーク番組の内容修正
番組タイトル：「生神女（しょうしんじょ）就寝祭；マリア崇拜と巡礼ルーマニア・ニクラ修道院」
担当教員：新免光比呂（民族文化研究部）

資料7 . 2013年度に公開した短編番組、マルチメディア番組、研究用映像資料

1. 「インディアン・ジュエリーの現在」

制作監修：鈴木紀（民族文化研究部）、伊藤敦規（研究戦略センター）

世界に広く知られる米国南西部先住民の宝飾品。その制作技法を紹介するとともに宝飾品産業の歴史と現状を解説する。（番組番号1706）

2. 「ウダイプルの婚礼」

制作監修：三尾稔（研究戦略センター）

ヒンドゥー教徒でサフーと呼ばれるカーストの人びとの婚礼の様子。婚礼前後の様々な伝統の儀式を紹介する。（番組番号1708）

3. 「ウダイプルのホーリー祭」

制作監修：三尾稔（研究戦略センター）

大きな火をたいて1年のケガレを払い、カーストの区別なく老若男女が色粉をかけ合って春を迎えるお祭りの様子。（番組番号1709）

4. 「雲南省ペー族の結婚式」

制作監修：横山廣子（民族社会研究部）

2007年秋の婚礼。二人は町のホテルの職場で出会い、花婿の実家のある村で伝統にのっとった式を挙げた。（番組番号1710）

5. 「雲南省ペー族の中元節」

制作監修：横山廣子（民族社会研究部）

日本のお盆に似たペー族の中元節。家型厨子に納められた位牌をまつり、供物を捧げて祖先の霊を迎える。（番組番号1711）

6. 「雲南省ペー族のたいまつ祭り」

制作監修：横山廣子（民族社会研究部）

大理盆地のペー族のたいまつ祭り。人々はたいまつの下を回って火の粉を浴び、一年の無病息災を祈る。（番組番号1712）

7. 「ボランティアが見た2012年韓国の大統領選挙——キム・シヨンさんの選択」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

ボランティアのキムさんを通して、韓国大統領選挙の様子を見る。韓国国立民俗博物館との共同製作番組。（番組番号2807）

8. 「2012年 安東権氏 時祭」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

韓国で先祖を追慕し、一族の一体感を高める「時祭」の様子をのぞく。韓国国立民俗博物館と

の共同製作番組。(番組番号2808)

9. 「牛と共に」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

田畑を耕す「役牛」が減少するにもかかわらず、今もなお牛と共に生きる夫婦の姿を追う。韓国国立民俗博物館との共同製作番組。(番組番号2809)

10. 「자원봉사자가 본 2012년 한국의 대통령 선거－김시연씨의 선택」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

자원봉사자인 김시연씨를 통해서 본 한국대통령선거를 살펴본다. 공동제작：한국 국립민속박물관 (番組番号8012)

11. 「2012年 安東權氏 時祭 (2012년 안동권씨 시제)」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

한국에서 조상을 추모하며 문중의 일체감을 높이는 시제를 살펴본다. 공동제작：한국 국립민속박물관 (番組番号8013)

12. 「소와 함께」

製作：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館

논밭을 경작하는 소가 감소함에도 불구하고 지금도 소와 함께 사는 부부의 모습. 공동제작：한국 국립민속박물관 (番組番号8014)

13. *Valencia's Virgin Mary Festival and the Dolçaina*

制作監修：Robert Garfias, TERADA Yoshitaka, SASAHARA Ryoji

The Festival of Virgin Mary is held annually in Eastern Spain where the human pyramid is performed to the accompaniment of the *Dolçaina*. (番組番号3690)

14. *El Festival de la Virgen Maria y la Dolçaina*

制作監修：Robert Garfias, TERADA Yoshitaka, SASAHARA Ryoji

El Festival de la Virgen Maria se celebra anualmente en España donde la Muixeranga (un castillo humano) se realiza con el acompañamiento de la *Dolçaina*. (番組番号8011)

15. 「ラージャスターンの結婚式」

制作監修：三尾稔（研究戦略センター）

伝統的儀式や価値観と現代的な流行が混じりあうヒンドゥー教徒の結婚事情に、関係者のインタビューも交えて迫る。(番組番号7222)

16. 「アイヌの魚皮布の衣装」

制作監修：佐々木史郎（先端人類科学研究部）、吉本忍（民族文化研究部）

かつて樺太のアイヌの人々が作っていたサケの皮の衣装を、北海道のアイヌの人々が現代によ

みがえらせようと試みる。(番組番号7223)

17. 「浜比嘉島のエイサー——沖縄の旧盆」

制作監修：寺田吉孝（先端人類科学研究部）

沖縄県浜比嘉島のお盆では、霊を迎え楽しませるために、太鼓を打ちながら踊るエイサーが演じられる。(番組番号7223)

18. 「ラージャスターン州メーワール地方のくらしと信仰」

制作監修：三尾稔（研究戦略センター）

急速な経済発展の影響で変わりつつある現代インド西部の町や村の暮らし。女神祭礼の様子を中心に紹介する。(番組番号6048)

社会連携分野

資料1. 文化資源プロジェクト

1. 博学連携教員研修ワークショップ2013 in みんなく

プロジェクト・リーダー：上羽陽子（文化資源研究センター）

2013年8月6日(火)に、博学連携教員研修ワークショップ2013 in みんなく「学校と博物館でつくる国際理解教育——センセイもつくる・あそぶ・おどる・たのしむ——」を、日本国際理解教育学会との共催で開催した。参加者は主に小・中・高等学校、支援学校等の教育機関教諭、大学生、大学院生、博物館職員など計150名であった（昨年度参加者数83名）。スタッフは、館内20名（内MMP2名）、館外38名であった。

2. カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施ならびに「アイヌ工芸 in みんなく」の開催

プロジェクト・リーダー：齋藤玲子（民族文化研究部）

2013年11月21日に、本館が所蔵するアイヌの標本資料に対して、安全な保管と後世への確実な伝承を目的に、祈りの儀式（カムイノミ）を行った。併せて国の重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊の演舞を、一般公開で実施した。社団法人北海道アイヌ協会苫小牧支部の会員14名（男性6名、女性8名）と、同協会理事長（男性）により、平成25年11月20日に準備と打ち合わせ、21日に公開でカムイノミと演舞、および館内向けに伝統食のふるまいをおこなった。カムイノミの準備と実際の儀式および演舞は、写真と動画で記録した。

また、「アイヌ工芸 in みんなく」は、本館1階ロビーにて、同協会認定の優秀工芸師3名と事務局員1名が11月20日に会場設営をし、21～24日の4日間にわたり刺繍と木彫の実演と体験の指導、作品の解説等をおこなった。

3. 学習キット「みんなく」の新規および改訂版の制作

プロジェクト・リーダー：岸上伸啓（研究戦略センター）

本館の教育機関向け貸出キットである「みんなく」内の1種類「極北を生きる」は、制作より10年以上が経過し、利用時の消耗により毛皮製アノラック等の毛抜けが激しい上、現状に合う様、内容の検討も必要となった。また、平成24年7月、22パックあるうちの11つを利用した学校が毛皮に直接消臭スプレーをかけたため、それ以降該当パックの運用を停止している。このため、「極北を生きる」の情報部分も含めた内容の見直しを行い、改訂版を2パック制作した。

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

本館の教育機関向け貸出キットである「みんなく」の「ジャワ文化をまとう」は、制作より10年以上が経過して老朽化し、一部内容物が欠損したまま運用している。そこで、平成26年度に新規パックを制作するため、当該パックを全面的に見直し、基本的コンセプトと内容を検

討した。

資料2. 文化資源計画事業

1. ワークショップの実施ならびにワークシートの運用

プロジェクト・リーダー：上羽陽子（文化資源研究センター）

民博で行なわれている各種研究活動ならびに展示の内容を、来館者を中心とした一般利用者に、より効果的、効率的に理解してもらうと同時に、一般利用者からの様々な意見や情報を民博内にフィードバックさせることを目的としたワークショップならびにワークシートの開発を実施した。

●実施したワークショップ

- ・特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」関連ワークショップ「ザフィマニリ家具に木彫り文様をほどこそう」

2013年5月21日(火)、5月28日(火)、6月1日(土)、6月8日(土)

参加者数：のべ28名

- ・夏休みこどもワークショップ「夏のアマゾン探検隊——フィールドワークに挑戦！」

2013年7月25日(木)

参加者数：20名

- ・特別展「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic Museum」関連ワークショップ「ファンタジックコレクション 集まれ！なんでも収集家！」

2013年10月27日(日)、11月17日(日)

参加者数：のべ12名

- ・年末年始展示イベント「うま」関連ワークショップ「大きな『うま』ジグソーパズルに挑戦！」

2014年1月13日（月・祝）、1月19日(日)

参加者数：のべ114名

- ・国立新美術館「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」展関連ワークショップ「わたし みんな めぐる イメージ——世界のものと向き合おう——」

2014年3月15日(土)、3月16日(日)

- ・春のこどもワークショップ「世界一周ビーズの旅 フィールドワークに挑戦！」

2014年3月31日(月)

参加者数：10名

●ワークシートの運用

本館展示新構築にともない、ワークシート「みんぱく見どころアラカルト」の改訂作業をおこなった。本館展示新構築に伴い展示資料の変更があったため、HPに掲載しているワークシートが使用可能かどうか、すべて確認し、改訂作業をおこなった。

2. ボランティア活動支援

プロジェクト・リーダー：上羽陽子（文化資源研究センター）

国立民族学博物館におけるボランティア活動者の受入要項に基づき、登録したボランティア団体である MMP（みんぱくミュージアムパートナーズ）および地球おはなし村の活動支援を行なった。

● MMP による企画・実施したイベント

来館者サービス 1 グループ

- ・点字教室

2013年 4月13日(土)・5月11日(土)・6月8日(土)・7月13日(土)・8月10日(土)・9月14日(土)・10月12日(土)・11月9日(土)・12月14日(土)・2014年 1月11日(土)・2月8日(土)・3月8日(土)

- ・視覚障がい者案内（本館展示場）

2013年 5月18日(土)（個人）・6月27日(木)（大阪市立視覚特別支援学校）・8月2日(金)（個人）・9月13日(金)（阪神北青い鳥学級）・10月4日(金)（広島県立広島中央特別支援学校）・10月11日(金)（青森県立盲学校）・10月24日(木)（岩手県立盛岡視覚特別支援学校）・11月7日(木)（交野市視覚障がい福祉会）・2014年 2月14日(金)（個人）・3月14日(金)（個人）・3月22日(土)（ライトハウス）・3月25日(火)（クラブツーリズム）・3月31日(月)（個人）

- ・体験プログラム「瞽女文化にさわる」に協力。

2013年 4月27日(土)・5月25日(土)・6月22日(土)・7月27日(土)

- ・特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」視覚障がい者案内

2013年 6月1日(土)～6月9日(日)

- ・ワークショップ「きり絵をつくろう！——夏休みの宿題はみんぱくで！——」実施

2013年 8月11日(日)

来館者サービス 2 グループ

- ・特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」

2013年 3月14日～6月11日

MMPのなかから有志としてチームガシカーラを結成。ザフィマニリの編み、ぶんぶんゴマ作り、家壁の文様彫りなどの体験型プログラムを実施した。

- ・あそびのひろば2013「世界の遊びであそぼ！」

2013年 5月5日（日・祝）

参加者数：782名

- ・ワークショップ「ボール紙でブーメランを作ろう」

2013年11月17日(日)

参加者数：18名

- ・年末年始展示イベント「うま」関連イベント「折り紙で遊ぼう！干支シリーズ『午』」

2014年 1月13日（月・祝）

参加者数：49名

- ・ものづくりワークショップ「仮面で変身してみよう！」

2014年 3月16日(日)

参加者数：28名

博学連携グループ

- ・「わくわく体験 in みんなく」

2013年 5 月30日(金)	大阪市立思斉特別支援学校中部 1 年生	46名
2013年 9 月20日(土)	京都市立伏見南浜小学校 6 年生	96名
2013年10月 4 日(土)	摂津市鳥飼東小学校 5 年生	42名
2013年10月24日(金)	大阪府立茨木支援学校小学部 3 ～ 6 年生	11名
2013年11月 1 日(土)	松原市立中央小学校 4 年生	87名
2013年12月10日(水)	京都 IUA 小学部 1 ～ 5 年生	15名
2014年 2 月 7 日(金)	猪名川町立大島小学校 1 ～ 2 年生	18名
2014年 3 月 6 日(木)	泉大津市立戎小学校 2 年生	80名

事務局

- ・ワークショップ「描き書き@みんなく ― 探してみよう！世界の祭り ―」

2013年12月 7 日(土)

- ・年末年始展示イベント「うま」関連イベント「えとの午で絵馬をつくろう」

2014年 1 月26日(日)

- 地球おはなし村による企画・実施したイベント

- ・おはなし、おはなし～西アフリカの昔話をかたる～

2013年 5 月23日(木)・ 6 月16日(日)・ 7 月25日(木)・ 8 月18日(木)・ 9 月26日(木)・10月20日(日)・11月28日(木)・2014年 1 月19日(日)・ 2 月27日(木)・ 3 月16日(日)

3. 学習キット「みんなく」運用の実績

学習キット「みんなく」は平成25年度の運用を無事に終えることが出来た。25年度は、151の学校や社会教育施設に、のべ227回の貸出を行った。

運用を通じて利用者から得た要望や意見を今後の開発・運用に可能な限り反映させていく。

1) 運用について

1) 運用パック		
名 称	制作担当教員	個数
極北を生きる	岸上 伸啓	2*
アンデスの玉手箱	關 雄二	2
ジャワ文化をまとう	福岡 正太	1
イスラム教とアラブ世界の暮らし	西尾 哲夫	1
ブータンの学校生活	栗田 靖之	1
ソウルスタイル	朝倉 敏夫	2
ソウルのこども時間	朝倉 敏夫	2
インドのサリーとクルター	杉本 良男	2
プリコラージュ	佐藤 浩司	3
アラビアンナイトの世界	西尾 哲夫	2
アイヌ文化にであう	佐々木利和	1
アイヌ文化にであう 2	佐々木利和	1
モンゴル	小長谷有紀	2
計		22

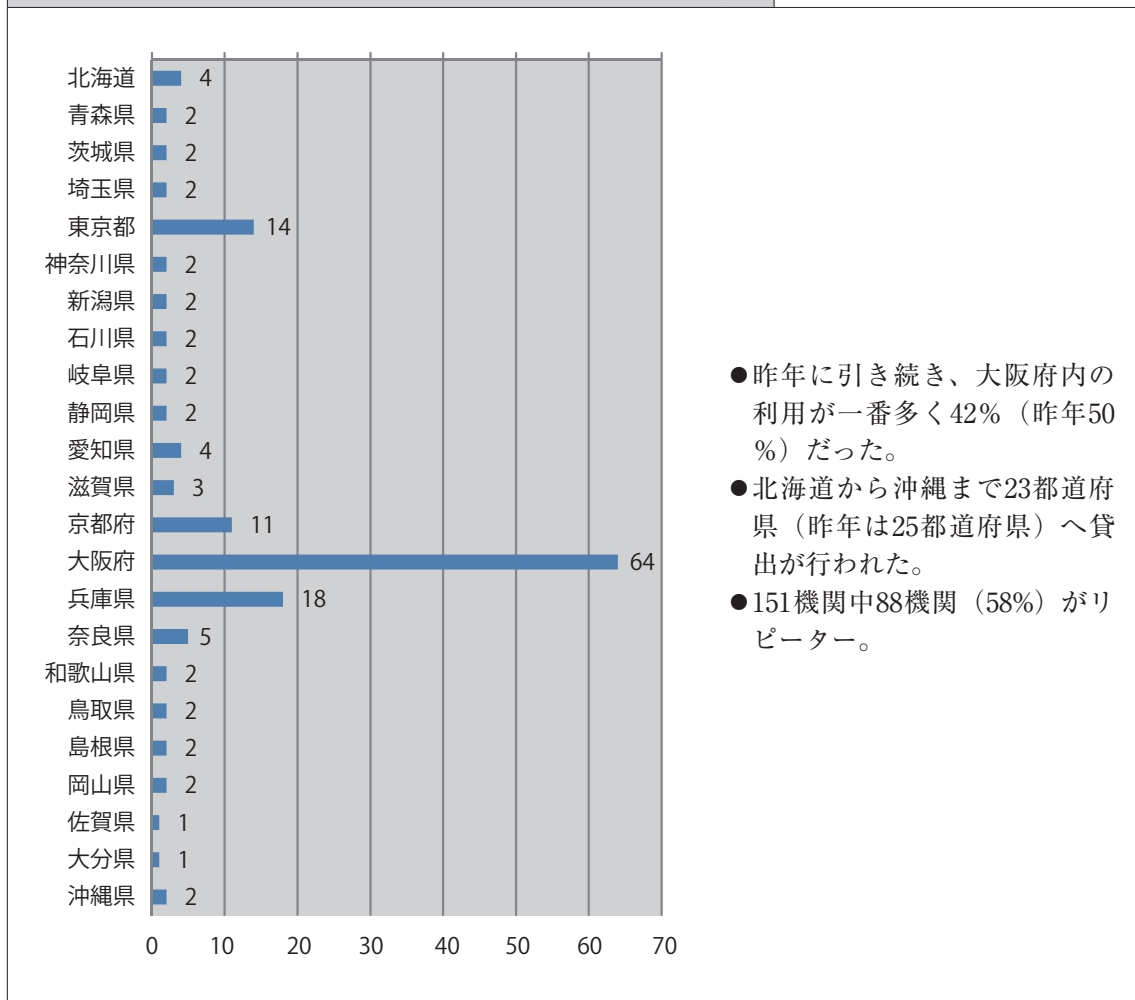
*「極北を生きる」1パックは運用停止中

2) 運用概況

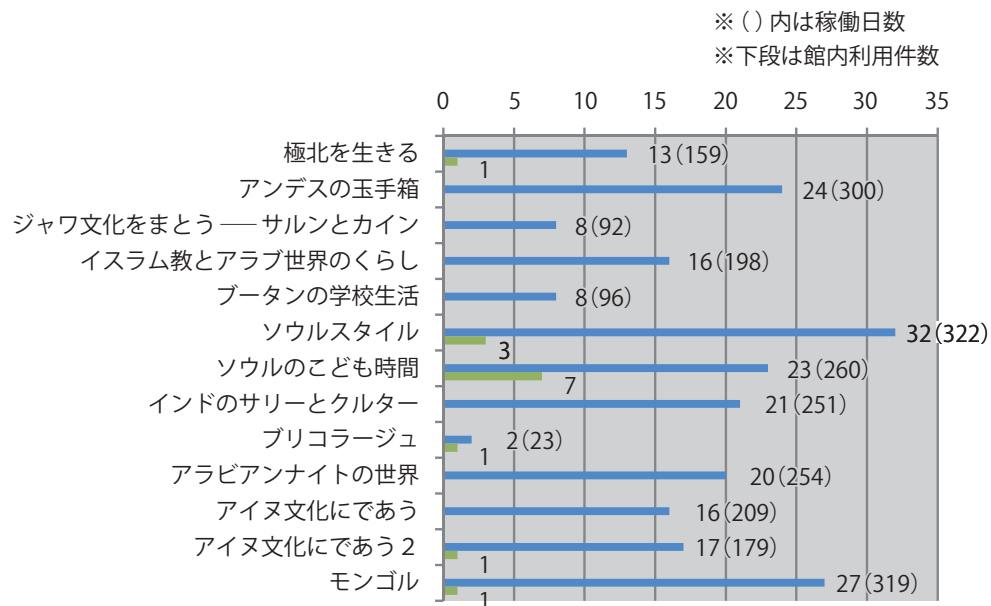
●貸出対象 小中高等学校 社会教育施設等		
●貸出期間 1回につき2週間以内		
●使用料 輸送費のみ利用者負担		
		24年度実績
◆貸出件数	227	213
◆貸出機関	151	136
	小学校	54
	中学校	25
	高等学校	12
	大学	19
	その他*	41
◆利用人数	11,262	10,276
(サンプル114件中) (サンプル96件中)		

* 5) を参照ください。

3) 都道府県別利用状況（貸出機関単位:合計151件）

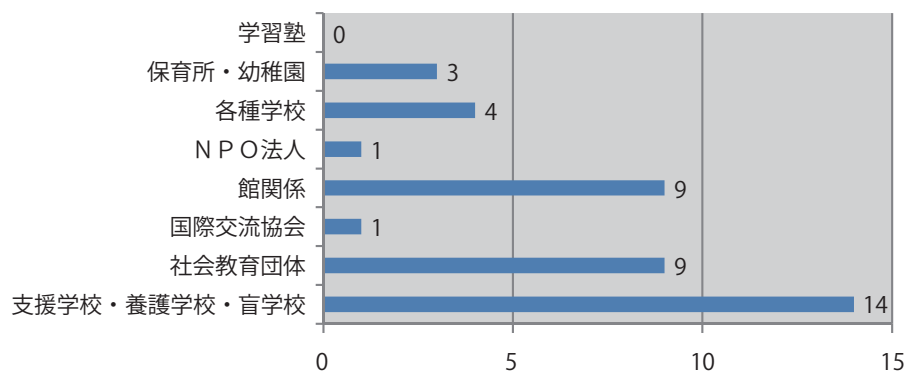


4) パック別利用件数（館外227件、館内14件）



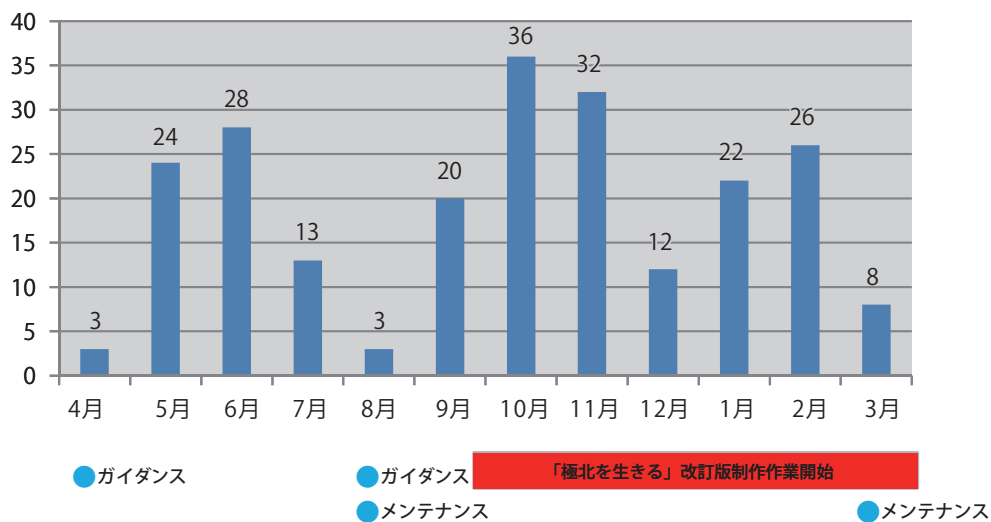
- 昨年度より貸出件数が14件増え、過去最多件数を記録した。
- 「ソウルスタイル」は今年度、4パックから2パックに減少したが、利用件数、稼働日数共に最も多く利用された。
- 館内貸出では、新規パック「ソウルのこども時間」の利用が7件で最も多かった。

5) 貸出機関における「その他」の機関内訳（41件）



- 館関係が多いのはMMPが月別で何度も利用しているため。

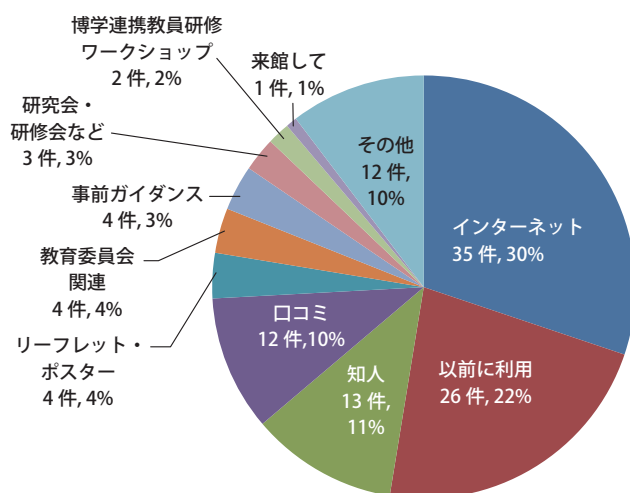
6) 年間スケジュールと月別貸出件数



※ 8月と3月はメンテナンスのため約2週間、貸出を休止しています。

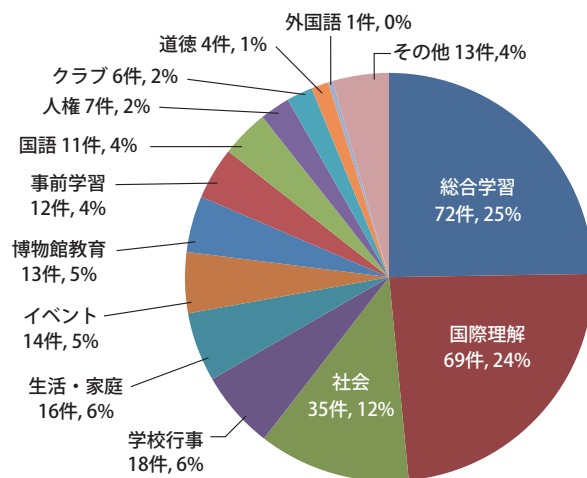
- 5月ソウルスタイル改訂版・ソウルのこども時間貸出開始
- 昨年に比べ、5・6月の貸出の増加が著しかった。(1.7倍)
- 例年、夏休みや春休みの時期は利用件数が少ないが、今年度は3月のメンテナンス直前まで貸出があった。
- 2学期は学芸会や各種イベントが多いため昨年と同じく10月と11月の利用件数が伸びた。

7) 「みんぱく」の認知媒体 (アンケート回答数: 109件、複数回答あり)



- インターネットでの認知件数が最も多い。
- リピーターや先生同士の口コミが多く見られる。
- 博学連携教員研修ワークショップ、事前ガイダンスでの認知も少しではあるが増加している。

8) 使用目的 (アンケート回答数: 212件、複数回答あり)



- 「総合学習」「国際理解」が最多で、次いで社会や国語等の授業で使われる事が多い。
- 近年、学校行事やイベントでの利用が増加している。
- 今年度は博物館教育として大学での利用が増加した。

9) 運用コスト

●衣装クリーニング代	240,000 円
●資料補充・修理費	362,146 円
計	602,146 円

- 運用開始から10年を過ぎ、内容物の劣化が激しく修理・補充の機会が増えている。またパックの種類も増加しているため、クリーニングや修理・補充には多くの費用を要する。今年度みんぱっくの運用・保守費としてかかった費用は602,146円であった。
- 特にスーツケースの消耗が激しいため、新しいものに交換していく必要があるが、予算の都合上、断念した。

※一部執行予定を含む

10) 新規もしくは改訂版制作したパック

改訂版「極北を生きる」2パック

2) みんぱっく利用者からの要望 (アンケートより)

- パックが重すぎて移動が大変だった。
- 子ども達用の衣しょうをもう少し増やしてほしい。
- 音楽などの視聴覚資料がもっとあれば広がりができる。
- 「みんぱっく」の種類を増やしてほしい。
- 点数が多すぎて実際にいかされない品が多くあったため、ミニセットなどがあれば使いやすい。

3) 平成25年度の取り組み

- 13種類22パックすべてのCO₂処理（3月）および衣装187点のクリーニング（8月・3月）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんぱく」の案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- 「みんぱく改訂版『極北を生きる』」の制作（平成25年度文化資源プロジェクト）
- 来年度のLet's みんぱく更新に向けての取り組み。
- ティーチャーズパックの整備（書籍のブックカバーなど）

4) 来年度以降の取り組み

- 「みんぱく改訂版『ジャワ（仮題）』」の制作（文化資源プロジェクト）
- 「みんぱく改訂版『アンデス（仮題）』」の計画（文化資源プロジェクト）
- 「展示版みんぱく」の制作『あるく、ウメサオタダオ展』（文化資源プロジェクト）
- 団体見学の下見来館者に対する「みんぱく」の案内（春・秋に行われるガイダンスにおいて）
- Let's みんぱくの取材、更新作業
- 現行パックの資料の補充・ストックの確保、備品の交換
- ストックの在庫管理・分類整理
- ホームページ整備作業（モノ情報カードの統一・更新等）

みぱ 夏休みこどもワークショップ

フィールドワークに挑戦!



アマゾン

自由研究はこれで解決!

探検隊

2013年7月26日 金曜日



本ワークショップは、企画展「アマゾンの生き物文化」(開催:2013年5月23日~8月13日) 展示場をアマゾンの森林にみたと、担当講師とともに展示場を探検し、フィールドワークをおこないます。応募についての詳しい情報は裏面をご覧ください。

時 間: 10時30分~16時 (受付10時~)
場 所: 国立民族学博物館

参加費: 500円
定 員: 20名

対 象: 小学4年生~6年生
応 募: 事前申込制 (先着順)



フィールドワークに挑戦！ 夏のアマゾン探検隊

自由研究はこれで解決！

フィールドワークとは？
研究者が、研究テーマにもとづいて
現地を実際おとずれ、そこから情報を
集めて記録する方法です。



アマゾンには、日本の面積の約 20 倍、地球最大の熱帯雨林が広がっています。
そこには、約 2000 種の魚、約 250 種のけものたち、約 1800 種の鳥、100 万種以上の昆虫が生きています。人びとは、いったいどれくらいの生き物とどのように共存してきたのでしょうか。このワークショップでは、展示場をアマゾンのフィールドにみたとて、人と生き物との知られざる関係を参加者のみなさんとともにフィールドワークします。

ワークショップ前半は、アマゾンの森林と題して担当講師とともに展示場を探検し、フィールドワークをします。後半はフィールドワークで発見した事を「報告書」にまとめてみんなで合評会を行い、成果物は本館エントランスホールにて展示します。
今年の夏は、みんぱくで 1 日研究者になって「フィールドワーク」を体験してみましょう！



講師：池谷和信（国立民族学博物館教授）

野生動物、家畜、ペットなどの人と生き物とのかわり方について地球的視野で研究をしている。
最近、わたしたちのくらしと家畜に関する 2 冊の児童書を刊行。
『家畜ってなんだろう』『家畜にいま何が起きているのか』
(いずれも童心社 2013 年)

日 程：2013 年 7 月 26 日（金）
時 間：10 時 30 分～16 時（受付 10 時～）
場 所：国立民族学博物館 本館 2F
企画展示場 A、ナビひろば

対 象：小学 4 年生～6 年生

講 師：池谷和信（国立民族学博物館教授）

参加費：500 円
※自然文化園（有料区域）を通行される場合は、
別途大人 250 円、子ども 70 円が必要となります。

応 募：事前申込制（先着順）

定 員：20 名（定員に達し次第受付を終了します。）

持ち物：デジタルカメラ

昼食

※お弁当を持参いただければ館内の指定場所で昼食をとっていただく事が可能です。
みんぱく館内のレストラン、万博公園内のカフェもご利用いただけます。

成果物について

当日制作された成果物は本館エントランスホールにて展示後、郵送にて返却させていただきます。

展示期間：2013 年 7 月 26 日（金）～2013 年 8 月 19 日（月）

返却時期：2013 年 8 月 20 日（火）～23 日（金）頃

応募方法：

Eメール、または往復ハガキにて①参加者氏名・年齢
②住所 ③電話番号 ④保護者氏名を明記のうえお申し込みください。1 通につき 1 名までとさせていただきます。参加の可否については Eメール、またはハガキにてご連絡さしあげます。

申し込み先：

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
国立民族学博物館 情報企画課
「夏休み子どもワークショップ」係
workshop@idc.minpaku.ac.jp

お問い合わせ（土日祝除く 9 時～17 時）
情報企画課「夏休み子どもワークショップ」係
Tel:06-6878-8532

<保護者の方へ>

見学される場合は、子どもたちのフィールドワーク、成果物制作の手伝いはご遠慮ください。
ワークショップに参加するすべての子どもたちが、たのしく有意義な 1 日を過ごせるように、ご理解とご協力をお願いいたします。



国立民族学博物館

交通のご案内 国立民族学博物館（みんぱく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車徒歩約 15 分
※「公園東口駅」からは自然文化園（有料区域）を通行せずに来館できます。
- バス……………阪急茨木市駅・JR 茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約 15 分（茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが 1 時間に 1 本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）
- タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。
- 乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約 5 分

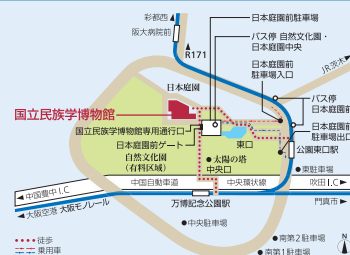
※「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。

空メールを送って
いただく、ワーク
ショップの情報を
メールでご案内し
ます。

workshopentry@idc.minpaku.ac.jp

みんぱく
携帯サイト

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
情報企画課 Tel:06-6878-8532
http://www.minpaku.ac.jp/



特別展

屋根裏部屋の博物館

ATTIC MUSEUM

渋沢敬三記念事業

関連ワークショップ

「屋根裏部屋の博物館」とは日本銀行総裁や大蔵大臣を歴任した銀行家・渋沢敬三（1896～1963）が邸内に設立した私設博物館兼研究所『アチックミュージアム』のこと。

今回みんぱくではアチックミュージアムが収集したさまざまな民具とその研究手法を展示します。民具とは人びとの生活の中で生み出され、使われてきた品々で、衣食住にかかわるものから、絵馬や信仰の対象となる神像など幅広いものがあります。一見脈絡がないように思われる多様なコレクションからは、どのようなストーリーがみえてくるのでしょうか。本ワークショップでは参加者のみなさんがこれまで収集してきたさまざまなコレクションを、収集方法や分類からみつめなおします。貝殻、切手、フィギュア、おもちゃなどなど、なんでもOK。この機会に、みんぱくであなたのコレクション自慢をしてみませんか？

ファンタジックコレクション

あなたのコレクションをみんぱくで写真展示！

集まれ！
何でも収集家！

2013年

1日目 10月27日（日） 13時～16時

2日目 11月17日（日） 13時～16時30分

会場／国立民族学博物館

本館2階、ナビひろば、特別展示館
応募／事前申し込み制

参加費／無料

みんぱく

ファンタジック コレクション

集まれ！何でも収集家！

本ワークショップは、全2日間のワークショップです。

1日目はみんぱく教員によるトークと展示場内で、渋沢敬三が「民具」と命名した学術概念にそったコレクション資料について紹介します。個人の収集物を分類、定型して展示公開することとは？人はなぜ物を集めるのか？などについてみんぱく教員と一緒に考えます。

2日目は、参加者各自のコレクションの分類法や着眼点を写真で発表します。参加者のみなさんの多種多様なコレクションからみえてくるストーリーについて参加者全員でディスカッションします。ワークショップの後は、参加者のみなさんの御持参した写真をみんぱくエントランスホールにてパネル展示します！



日 時：2013年10月27日（日）13時～16時（受付12時30分）

2013年11月17日（日）13時～16時30分（受付12時30分）

※11月17日（日）無料観覧日です。

場 所：国立民族学博物館 本館2階 ナビひろば、特別展示館

講 師：先端人類科学研究部准教授 飯田 卓

対 象：一般（小学4年生以上、それ以下は保護者同伴で参加可）

参加費：無料（別途要）

観覧料：一般830円、高校・大学生450円、中小生250円

定 員：15人 ※応募者数が定員に達した場合抽選

応募方法：右記のフォームメーカーからのご応募または、郵送で右上の「応募時の記入事項」の内容を明記してご応募ください。

応募締め切り：平成25年10月14日（月・祝）必着

展 示 期 間：平成25年11月21日（木）～12月3日（火）

【応募時の記入事項】

- 1、参加者名
 - 2、年齢・性別
 - 3、住所
 - 4、電話番号（緊急時連絡用）
 - 5、コレクション名
 - 6、コレクション歴
 - 7、コレクション点数
 - 8、代表の1品の単体写真とコレクション全体の集合写真（保管場所風景など）をそれぞれ1枚ずつをお送り下さい。
- 写真データ添付送信：1枚最大2MBまで ※2MB以上はCD郵送
※現像写真の場合：L版サイズ（通常の現像サイズ＝127mm×89mm）

【応募先】

インターネットでのお申し込みの場合は、以下の申し込みフォームにアクセスしてご応募ください。郵送は、以下の住所当座に上記の「応募時の記入事項」を明記の上、お送りください。

お申し込みフォーム：
<https://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/scform>

郵 送：
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 情報企画課「ワークショップ係」

【参加の可否返信等について】

締め切り日の2～3日後に参加の可否のご連絡をさせていただきます。メールでの返信または、応募時にご記入いただいた住所へハガキにて通知させていただきます。尚、送っていただいたコレクションの写真は返却いたしません。ご了承ください。

以下の条件でご参加可能な方、たくさんのご応募お待ちしております！

- ①1日目、2日目ともに参加可能な方
- ②私物コレクションの撮影が可能な方
- ③みんぱく指定のメールアドレスにデータを送るまたは、CD/現像した写真を指定住所に送る作業が可能な方

応募の前に確認ください！

関連webサイト

<http://shibusawakeizo.jp/event/>

お問い合わせ

国立民族学博物館

情報企画課「ワークショップ係」

Tel: 06-6878-8532



国立民族学博物館

みんぱく クリック

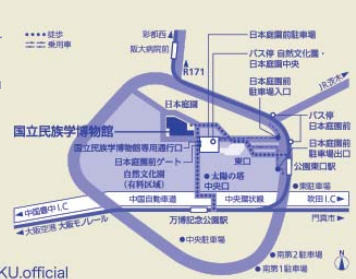
交通のご案内 国立民族学博物館（みんぱく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
※自然文化園（有料区域）を通行される場合当館（国立民族学博物館）の鑑賞券をお買い求め下さい。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」下車徒歩約15分
※「公園東口駅」からは自然文化園（有料区域）を通行せずに来館できます。
- バス……………[近鉄バス]（阪大本部行き）阪急茨木市駅から約20分
JR 茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
- タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。
- 乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分
※「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



下記メールアドレス宛に内容は空白（空メール）でメールをお送りください。今後のワークショップの情報をメールでご案内します。
workshopenry@idc.minpaku.ac.jp
※メールアドレスはQRコードをご利用いただいても取得できます。

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
広報企画室 広報係
Tel: 06-6878-8560
（土日祝を除く 9:00～17:00）
<http://www.minpaku.ac.jp/>
〈公式 Facebook〉
<http://www.facebook.com/MINPAKU.official>




国立民族学博物館 × 国立新美術館
 「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展 関連ワークショップ

わたしみんなめぐる イメージ

— 世界のものと向き合おう —

2014年

① 3月15日(土) 一般(中学生以上)

② 3月16日(日) 小学校4年生~6年生

いずれも、11:00—16:30 (昼食・休憩時間含む)

会場：
国立新美術館
展示室2E、研修室

世界中のさまざまな地域にくらす人びとが、
つくりだしてきたもの。
今日では博物館に所蔵されているこれらのものと
美術館で出会ったらどのように見えるのでしょうか。
「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展は、
ものの見方や、人間とものの関係について問いかける展覧会です。

定員：各回20名
参加費：500円

要事前申し込み
締切：
3月7日(金)

今回のワークショップでは、「イメージの力」展を企画した、
国立民族学博物館と国立新美術館の6人の研究者と一緒に
展示室をめぐります。ひとつひとつの資料・作品とじっくり
向き合い、思ったことや知りたいことを講師や参加者とたくさん
語り合うことで、きっと新しい見方を得られるでしょう。一人で
見るよりも刺激的で楽しい展示室での体験と一緒にしませんか。

講師プロフィール

吉田 憲司
よしだけんじ

国立民族学博物館

アフリカを中心とした、儀礼や
仮面の研究を進めるとともに
ミュージアム(博物館・美術館)
における文化の表象のあり方を
研究しています。

山中 由里子
やまなかゆりこ

国立民族学博物館

中世のイスラーム世界の
驚異譚(不思議なお話)の
研究をしています。

齋藤 玲子
さいとうれいこ

国立民族学博物館

北海道のアイヌ民族、カナダ、
アラスカなど寒い土地に暮らす
先住民族の文化と歴史、
そしてその生活用具の
研究をしています。

長屋 光枝
ながやみつえ

国立新美術館

20世紀のドイツで、
線・形・色だけで描かれた、
「抽象絵画」と呼ばれる絵の
分野について研究を
しています。

山田 由佳子
やまだゆかこ

国立新美術館

フェルナン・レジェと、
ジャン・フォートリエという
作家を中心に、絵の中で身体が
どのように描かれるかにつ
いて研究をしています。

上羽 陽子
うえばようこ

国立民族学博物館

インドで牧畜を主な生業とする
人びとの刺しゅうや染め、
織りなどの手工芸品の
研究をしています。

イメージの力 —国立民族学博物館コレクションにさぐる—

2014年2月19日(水) — 6月9日(月)
国立新美術館 企画展示室2E

参加申し込み方法

国立新美術館ホームページ(<http://www.nact.jp/>)の
申し込みフォームまたは 普通はがきでお申し込みください。
【申し込みフォームでの応募方法】
申し込みフォームに必要事項を入力し、送信してください。
【普通はがきでの応募方法】
必要事項を明記の上、下記申し込み先までご郵送ください。
(1)「わたしみんなめぐるイメージ」参加希望
(2)参加希望日
15日(土)は一般(中学生以上)、
16日(日)は小学校4~6年生が対象となります。
(3)参加者の氏名(ふりがな)、年齢(小学生は学年も)
(4)郵便番号、住所
(5)連絡先電話番号(小学生は保護者の氏名と連絡先も)
申し込み先:
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
国立新美術館 学芸課 教育普及室 ワークショップ担当

本ワークショップの成果物は、展覧会開催期間中に
展示室2Eにて展示される予定です。また、成果物は
展覧会終了後に参加者へ返却されます。

・応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
・参加者には後日Eメールまたは郵送にてご連絡いたします。
・必要事項に記入漏れがある場合、受付をお断りすることがあります。
・参加申し込みをされた方以外のご見学、当日参加はお断りしております。
・お申し込みいただいた個人情報、本事業のために使用し、その他の
目的では使用しません。

問い合わせ先:
TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

申し込み締切 **2014年3月7日(金)**

世界一周✈️ビーズの旅

フィールドワークに挑戦！

みんなばくで
1日研究者になって
「フィールドワーク」を
体験してみよう！



フィールドワークって？

研究者が現地を実際におとずれ、
情報を集めて記録する方法です。



日 時：2014年3月31日(月) 10:30～16:00 (10:00 受付開始) 場 所：国立民族学博物館
対 象：小学4年生～6年生 定 員：15名 参加費：500円 ※別途観覧料(小学生110円)が必要です
講 師：池谷和信(国立民族学博物館教授) ファシリテーター：上羽陽子(国立民族学博物館准教授)

世界一周のビーズの旅

フィールドワークに挑戦!

ビーズは、人類の歴史とともに世界各地で生まれたもので、世界じゅうの人びとの文化の中に根付いてきた飾り玉です。本館展示には、世界各地のビーズがたくさんあります。世界の人びとはどのように活用してきたのでしょうか。池谷先生といっしょに展示場をフィールドワークし、発見した事をまとめてみよう!

ビーズっていろいろ!!!



ダチョウの布?



靴?



注射針のカバー?

実施日: 2014年3月31日(月)

時間: 10:30 ~ 16:00 (10:00 受付開始)

場所: 国立民族学博物館 本館展示場、ナビひろば

対象: 小学4年生 ~ 6年生

講師: 池谷和信 (国立民族学博物館教授)

ファシリテーター: 上羽陽子 (国立民族学博物館准教授)

定員: 15名 (定員に達し次第受付を終了します)

参加費: 500円 ※別途観覧料 (小学生110円) が必要です

持ち物: デジタルカメラ、昼食

※お弁当をご持参の方は、館内指定場所をご利用ください。
また、みんぱく館内のレストラン、万博公園内のカフェもご利用いただけます。

プロフィール:



講師: 池谷和信 (国立民族学博物館教授)

ビーズがもつ役割や、人と生き物とのかわり方について地球の視野で研究をしています。著書に「みんぱく発見 ⑤世界のビーズ」(千里文化財団2001年)、執筆に「アフリカのビーズの装身具」「世界のかわいい民族衣装」(誠文堂新光社2013年)。

ファシリテーター:
上羽陽子 (国立民族学博物館准教授)

インドで牧畜を主な生業とする人びとの利しゅうや染め、織りなどの手工芸品の研究をしています。著書に「インド・ラバーリー社会の染織と儀礼ワーク」とともに生きる人びと(昭和堂2006年)、監修に「世界のかわいい民族衣装」(誠文堂新光社2013年)。



成果物について

当日制作された成果物は本館エントランスホールにて展示後、郵送にて返却させていただきます。

展示期間: 2014年4月3日(木) ~ 4月15日(火)

返却期間: 2014年4月21日(月) ~ 4月23日(水) 頃



応募方法: 事前申し込み制 (先着順)

Eメールまたは往復ハガキにて、下記内容を明記のうえご応募ください。1通につき1名までのお申し込みとさせていただきます。

- | | |
|------------------|-----------|
| ① 参加者氏名(ふりがな)・学年 | ② 郵便番号・住所 |
| ③ 電話番号 | ④ 保護者氏名 |

応募先:

往復ハガキ 〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 情報企画課
「春のこどもワークショップ」係

Eメール workshop@idc.minpaku.ac.jp

応募締切日: 2014年3月20日(木) 必着



*ご応募いただいた方には当館より結果をお知らせします。
*ご応募いただいた方の個人情報、当館事業に関する目的以外では使用しません。
*締切後でも、定員に達するまで受付をしている場合がありますので、お問い合わせください。

お問い合わせ:

情報企画課 電話 06-6878-8532 (土日祝除く 9:00 ~ 17:00)



保護者の方へ

見学される場合は、こどもたちのフィールドワーク、成果物制作の手伝いはご遠慮ください。ワークショップに参加するすべてのこどもたちが、たのしく有意義な1日を過ごせるように、ご理解とご協力をお願いいたします。



国立民族学博物館

交通のご案内 国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

- 大阪モノレール... 「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
* 自然文化園各ゲート脇の券売機でみんぱくの観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」下車徒歩約15分
* 自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
[近鉄バス] (阪大本部行き) 阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
- バス... 万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。
- タクシー... 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
- * 「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。

みんぱく クリック

国立民族学博物館
情報企画課「春のこどもワークショップ」係
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel: 06-6878-8532 (土日祝を除く 9:00 ~ 17:00)
Fax: 06-6878-8242
http://www.minpaku.ac.jp/
公式 Facebook http://www.facebook.com/MINPAKU.official



みんな

音楽の祭日 2013

in みんな

Fête de la
Musique

6/30 日 10:15~16:45
(開場10:00)

無料観覧日 (本館展示場入館は16:30まで)

※自然文化園を通行される場合は入園料 (大人250円、小・中学生70円) が必要です。

※公園東口駅下車、日本庭園前ゲート右側のみんな専用通行口からは無料で来館することができます。

主催:国立民族学博物館 主管:音楽の祭日日本事務局

音楽の祭日 2013 in みんなぱく

音楽の祭日 とは

1982年にフランスで、夏至の日にみんなで音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまりました。それは、今、世界各地に広がりつつあります。日本でも、その趣旨に賛同する人びとの呼びかけで、2002年から「音楽の祭日」がスタートしました。音楽の祭日は夏至（6月21日）およびその前後の日で開催されますが、本年度、みんなぱくでは6月30日（日）に開催いたします。

*日本事務局 <http://www.mediatv.ne.jp/ongakunosaijitsu/>

6/30日
開催



プログラム

会場：特別展示館

10:15~10:30 開会式

10:30~10:55 **小江南曲社**
茶館などでよく演奏されている、中国江南地方の民間管弦音楽「江南絲竹」のアンサンブル。

10:55~11:20 **ハラウ フラ オ マカナアロハ**
ハワイの楽器、イプヘケ、カーエケエケ、ウリウリ、ココナツ等を用いた歌の意味を踊りと共に表現。

11:20~11:45 **笛星(ふえすた)**
岸和田だんじり祭りの祭りばやしを小中学生で演奏。

11:45~12:10 **choo-san(チューサン)**
ルーツ系の音楽で使われることの多いフラット・マンドリンを使っている弾き語り。

12:10~12:35 **スワ・ギタ・プティウィ・ジャパン、パドマ・サリ、チャンドラ・バスカラ**
バリ島の舞踏と音楽(バリ・ガムラン)。

12:35~12:45 休憩

12:45~13:10 **Pulse**
打弦楽器ダルシマーを使用したバロックなど古典音楽の演奏。

13:10~13:35 **グルーボ福袋**
南米アンデスの民族音楽「folklore」。

13:35~14:00 **AKI&TERUYA**
ポップス。

14:00~14:25 **THE ENGINES**
世界各国のポップスを演奏。

14:25~14:50 **加藤 敬徳**
ミンミンの弾き語り。

14:50~15:15

紅蓮工廠音楽班

笛子、二胡、琵琶、古筝の中国伝統楽器によるアンサンブル。

15:15~15:40

地球おはなし村音楽畑

西アフリカの太鼓ジェンベを使った音楽。

15:40~16:05

Sol de las Indias

ボリビアの民族ダンス。ボリビアの民族音楽「folklore」に合わせて、ダンスを踊る。

16:05~16:30

太鼓集団 童夢

和太鼓のオリジナル曲を演奏。

16:30~16:45

閉会式

会場：本館1F
エントランスホール

12:00~12:30

パシール・ピンタン

インドネシア・西ジャワの竹の民族楽器アングロンによるアンサンブル。

12:30~13:00

ハーラウ ケアラカパヴァ

ハワイの伝統楽器とオリ(チャント=詠唱)、本格的なカヒコ(古典フラ)。

13:00~13:30

SWEET HARMONY(スウィートハーモニー)

シルク・ロードに代表される様々なルートにより伝来した世界の音楽文化の精華を演奏。

13:30~14:00

バンチャ パリワール

ネパールの民族楽器を使ったネパール音楽の演奏。

14:00~14:30

オカリナアンサンブル♪ミラクル

イタリア発祥のオカリナで馴染みのある曲をアンサンブルで演奏。

14:30~15:00

ダルマ・ブダヤ

インドネシア・ジャワのガムラン古典曲およびガムラン楽器によるオリジナル曲。

*出演者や演奏時間は変更する場合があります。



国立民族学博物館

交通のご案内 国立民族学博物館(みんなぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

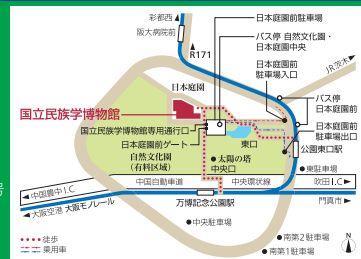
- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車徒歩約15分
- バス……………阪急茨木駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から、自然文化園・日本庭園中央経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。
- 乗用車……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。

みんなぱく
携帯サイト



お問い合わせ
国立民族学博物館 情報企画課
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6878-8532
(土日祝を除く 9:00~17:00)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



「音楽の祭日 2013 in みんなく」報告書

平成25年 6 月30日(日)、国立民族学博物館で主催した「音楽の祭日 2013 in みんなく」について下記のとおり報告します。

記

1. 日時【天候】 平成25年 6 月30日(日)無料観覧日 10:15～16:45 【晴れ】
2. 実施場所 特別展示館および本館エントランスホール
3. 参加人数 特別展示館 のべ2200名、エントランスホール のべ1201名
4. 出演者人数 187名・20グループ（新規 3 グループ含む）
5. 民博側担当 教員 5 名、機関研究員 2 名、広報企画室 4 名、情報企画課 9 名
6. アルバイト 5 名（総合研究大学院大学生 4 名）（当日）運搬・搬入・会場撤収
7. 外部委託 特定非営利活動法人 人文力 （当日）運搬・搬入・会場撤収：3 名
 (株)アーチェリープロダクション
 （6月29日）機材設営：4 名 （当日）音響・照明調整：6 名
 ジャパンレントオール(株) スタッキングチェア200脚 レンタル・設置・撤収
 (株)西岡印刷所 チラシ印刷14000部
 井高野 PDM (株) チラシ発送準備作業 450件
8. 費用 881千円
 〈内 訳〉 特定非営利活動法人 人文力 95千円
 アルバイト謝金 38千円
 (株)アーチェリープロダクション 400千円
 ジャパンレントオール(株) 218千円
 (株)西岡印刷所（印刷のみ） 100千円
 井高野 PDM (株) 20千円
 制服クリーニング 10千円

9. 趣 旨

「音楽の祭日」は、1982年にフランスで生まれた「音楽の祭典」を原型に、毎年、夏至の日を中心に世界的に開催される行事で、わが国でも2002年から日本事務局が中心となって文化復興及び国際交流を目指して各種の文化施設で参加費無料の音楽会などが開催されてきた。民博では、「音楽の祭日」の趣旨に賛同し、社会連携の一環として、音楽家または音楽グループに博物館を開放することを目的としてイベント「音楽の祭日2013 in みんなく」を開催した。なお、民博における「音楽の祭日」の開催は、2003年以来通算11回目となり、当日はテレビの取材などもあり広報の機会が増えた。

10. 実施概要等

昨年と同様、特別展示館（約300席）およびエントランスホール（約150席）をメイン会場とした。応募があった出演音楽家・音楽団体20グループすべてに参加し演奏をおこなった。特別展示館の音響・照明およびエントランスホールの一部照明については、専門業者が担当した。今年度は特別展示館の椅子のレンタル・設置を専門業者に依頼したため、事故も無く、準備もスムーズに行われた。当日は天気も良く、特別展示館、エントランスホールとも終始ほぼ満席の状態となり、立ち見の参加者もみられた。

11. 当日の様子



以上

展示分野

資料1. 文化資源プロジェクト（機関）

本館展示新構築

平成25（2013）年度は、平成20年度から開始された本館展示新構築の第6年次にあたり、本年度は、日本の文化展示場のうち、「沖縄地方の暮らし」と「多みんぞく日本」のセクション、朝鮮半島の文化展示、中国地域の文化展示の新構築を進め、平成26年3月20日に一般公開した。

資料2. 特別展（文化資源プロジェクト）

1. 特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」

2013年3月14日～6月11日

主 催：国立民族学博物館

実行委員長：飯田卓（先端人類科学研究部）

実 行 委 員：〔館内〕 岩谷洋史、上羽陽子、大貫美佐子（特別客員教員）、川瀬 慈
〔館外〕 朝岡知子（朝岡工房）、佐藤優香（東京大学）

民博所蔵の標本資料を活用して、マダガスカルでただひとつユネスコ無形文化遺産として登録されているザフィマニリ彫刻に関連する資料を展示し、マダガスカルにおける暮らしと、無形文化遺産の理念と現状を紹介した。

2. 特別展「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic MUSEUM」

2013年9月19日～12月3日

主 催：国立民族学博物館

実行委員長：近藤雅樹（民族文化研究部）

総括責任者：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

実 行 委 員：〔館内〕 飯田 卓、太田心平、齋藤玲子、野林厚志
〔館外〕 井上 潤（渋沢史料館）

内田幸彦（埼玉県立歴史と民俗の博物館）

齊藤 純（天理大学）

佐藤美祢（埼玉県立歴史と民俗の博物館）

佐野賢治（神奈川大学日本常民文化研究所）

大明 敦（埼玉県立歴史と民俗の博物館）

武田晴人（東京大学）

宮本瑞夫（宮本記念財団）

第二次世界大戦の戦中戦後に日銀総裁・大蔵大臣を歴任して敗戦後の日本復興に尽力した渋沢敬三は、私費を投じてアチックミュージアムを主宰して研究者の育成に献身したが、自らもまた研究者として民俗学の研究に従事した。平成25年は、渋沢敬三の没後50年の節目にあたり、本特別展では、その渋沢の業績を検証するとともに、調査研究成果の概要を展観した。

資料3. 企画展

1. 企画展（国際連携展示）「アリラン—— The Soul of Korea」

2013年5月2日～6月11日

主 催：国立民族学博物館、韓国国立民俗博物館、旌善アリラン研究所

プロジェクト・リーダー：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

プロジェクト・メンバー：太田心平、呉屋淳子、福岡正太

この展示は、韓国の国立民俗博物館で2012年に開催した「アリラン展」を世界に巡回する一環として、旌善アリラン研究所とも共同で実施したもので、韓国国外での展示開催の第1弾となった。

2. 企画展「アマゾンの生き物文化」

2013年5月23日～8月18日

主 催：国立民族学博物館

プロジェクト・リーダー：池谷和信（民族文化研究部）

この企画展では、アマゾン川をカヌーでさかのぼるイメージで展示物を配列し、さらに民族資料とその資料の素材となっている動物の標本とが組み合わせて展観することにより、アマゾンの生き物、とくに動物と人とのかかわりを立体的に紹介した。

3. 企画展・機構連携展示「武器をアートに——モザンビークにおける平和構築」

2013年7月11日～11月5日

主 催：国立民族学博物館 総合地球環境学研究所

プロジェクト・リーダー：吉田憲司（文化資源研究センター）

プロジェクト・メンバー：[館内] 川瀬慈、平井京之介

[館外] 阿部健一（総合地球環境学研究所）

寺田匡宏（総合地球環境学研究所）

竹内よし子（えひめグローバルネットワーク）

横田美保（えひめグローバルネットワーク）

フィエル・ドス・サントス（アーティスト）

クリストヴァオ・カンハヴァト（アーティスト）

ニコウラウ・ルイス（モザンビーク・キリスト教評議会）

モザンビークでは、現在、1992年の内戦終結後も民間に大量に残された武器を農具と交換して回収するとともに、回収した武器を用いて平和を訴えるアートの作品を生み出すという、プ

プロジェクトが進められている。この企画展では、民博が2012年に収集した作品と、このプロジェクトを支援してきた日本のNGO えひめグローバルネットワークの所蔵作品を一堂に展示した。

4. 企画展「台湾平埔族の歴史と文化」

2013年9月12日～11月26日

主催：国立民族学博物館、国立台湾歴史博物館（台湾）

プロジェクト・リーダー：野林厚志（研究戦略センター）

この展示は、台湾の国立台湾歴史博物館（台史博）と民博との国際連携展示として台史博で先行して公開された展示「看見平埔」を民博の企画展として開催したものである。近年、オーストロネシア系の先住民族と16世紀以降に増加した漢族系移民との相互作用を考えるうえで注目されている平埔族に焦点をあて、その歴史性と現代における民族アイデンティティの動向を紹介した。

資料4. 本館展示新構築の準備

1. 中央・北アジア展示新構築事前調査

展示プロジェクト・リーダー：佐々木史郎（先端人類科学研究部）

展示プロジェクト・メンバー：[館内] 池谷和信、小長谷有紀、藤本透子、吉本 忍

[館外] 帯谷知可（京都大学）

島田志津夫（東京外国語大学）

島村一平（滋賀県立大学）

高倉浩樹（東北大学）

ダダバエフ、チムール（筑波大学）

平成27年（2015年度）に実施する本館・中央・北アジアの展示の新構築に向けて、新規資料の収集と平行して展示資料の選定と展示基本設計に向けたデザイン案の検討を進めた。

2. アイヌ展示新構築事前調査

展示プロジェクト・リーダー：齋藤玲子（民族文化研究部）

展示プロジェクト・メンバー：[館内] 伊藤敦規、岸上伸啓、佐々木史郎、吉田憲司

[館外] 貝澤和明（社団法人北海道アイヌ協会）

北原次郎太（北海道大学）

瀧口夕美（編集グループSURE）

津田命子（北海道立アイヌ総合センター）

床 州生（阿寒アイヌ工芸品協同組合）

野本正博（財団法人アイヌ民族博物館）

山崎幸治（北海道大学）

平成27年（2015年度）に実施する本館・アイヌ文化の展示の新構築に向け、継続的に研究会を開催し、現在のアイヌ文化展示の課題を洗い出して、その解決法についてアイデアを交換

するとともに、新構築のゾーニングについて検討を進めた。併せて、どのような資料を新規に収集すべきかについても意見交換をした。

資料5. 特別展・企画展の準備（文化資源プロジェクト）

1. 特別展「イメージの力——国立民族学博物館コレクションにさぐる」

2014年2月19日～6月9日

会 場：国立新美術館

2014年9月11日～12月9日

会 場：国立民族学博物館

主 催：国立民族学博物館、国立新美術館

実行委員長：吉田憲司（文化資源研究センター）

実 行 委 員：〔館内〕 上羽陽子、斎藤玲子、須藤健一、丸川雄三、山中由里子

〔館外〕 青木 保（国立新美術館）

長屋光枝（国立新美術館）

南 雄介（国立新美術館）

山田由佳子（国立新美術館）

足羽與志子（一橋大学大学院）

春日直樹（一橋大学大学院）

窪田幸子（神戸大学大学院）

民博のコレクションを精選し、人類の生み出すイメージの創造と教授のあり方に、文化や民族を超えた普遍性があるか否かを検証する特別展。国立民族学博物館開館40周年・日本文化人類学会創立50周年記念事業として、2014年2月から6月まで、東京・国立新美術館において開催し、さらに同展を同年9月から12月まで民博で開催すべく、2013年度は、その展示の企画立案、作品選定、図録の編集執筆を進めた。国立新美術館での展示は予定通り開幕し、図録も刊行した。

2. 日韓共同開催特別展「頭で食べる日韓の食——食と博物館」（仮題）

2015年8月下旬～11月上旬

会 場：国立民族学博物館

2015年12月上旬～2016年2月末

会 場：韓国国立民俗博物館

実行委員長：朝倉敏夫（文化資源研究センター）

実 行 委 員：〔館内〕 太田心平、呉屋淳子

〔館外〕 千 鎮基（韓国国立民俗博物館）

金チャンホ（韓国国立民俗博物館）

林 史樹（神田外語大学）

守屋亜記子（女子栄養大学）

李愛俐娥（東京大学）

2015年度が日韓基本条約締結50周年を迎えるので、これを記念した特別展を日韓両国で開催することを同意し、テーマを「食」とすることに定めた。日本での開催を2015年8月下旬～11月上旬、韓国での開催を2015年12月上旬～2016年2月末とすることとし、準備を開始した。

3. 企画展「大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」の準備

2014年5月15日～8月5日（予定）

プロジェクト・リーダー：日高真吾（文化資源研究センター）

2012年度に寄贈受け入れをおこなった大阪府指定有形民俗文化財「時代玩具コレクション」の一次整理作業がほぼ終了したことを受け、平成26年度に本コレクションを展示公開する。平成25年度は、展示実施に向けての準備及び事前調査をおこなった。

4. 企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」の準備

2014年9月4日～11月18日（予定）

プロジェクト・リーダー：岸上伸啓（研究戦略センター）

プロジェクト・メンバー：〔館内〕 齋藤玲子（民族文化研究部）

〔館外〕 Kasper Hansen（キャスパー・ハンセン）デンマーク大使館

Jens Jensen（イエンス・イエンセン）デンマーク大使館

民博の所蔵品を中心に北海道立北方民族学博物館、高円宮家、国立グリーンランド博物館などの所蔵品や映像資料を用いて、世界最大の島グリーンランドの自然と文化を紹介する。企画展を2014年（平成26年）9月5日から11月4日（予定）まで民博・企画展示場Aにおいて開催する。2013年度（平成25年度）には、展示会開催のための準備をおこなった。

5. 企画展「シカチアリャン岩絵展」（仮称）事前調査

2015年5月から7月（予定）

プロジェクト・リーダー：佐々木史郎（先端人類科学研究部）

プロジェクト・メンバー：〔館外〕 鶴丸俊明（札幌学院大学）

井出晃憲（京都大学大学院）

ロシア連邦ハバロフスク地方に暮らす先住民族ナーナイの村落であるシカチアリャン村には、岩絵が残されており、しかも地元の住民がそれに独特の意味と解釈を与えて、聖なる遺物として守ってきた。本企画展ではその岩岸画の一部を写真と拓本を使って紹介するとともに、地元のナーナイの人々がそれをどのようなものとして伝承してきたのかを紹介する。2013年度には、その展示内容の企画立案を進めた。

資料6. その他の文化資源プロジェクト

1. 多機能端末室における新型ビデオテークの検討および開発実験

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

新型ビデオテーク構想のためのコンテンツとして、展示記録のマルチメディア番組を4本試作し、公開するとともに、利用状況の分析を行った。また、モバイル型のビデオテークシステムを実験的に構築した。

2. 次世代みんなく電子ガイドの開発実験

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

インフォメーションスタッフ用モバイル端末のwebアプリ化を進めると共に、来館者用にタブレット端末やスマホを用いた電子ガイドの試作版を作成した。また、コンテンツの充実を図るため、大学生を対象とした検討会を開いた。

3. 「日本の文化」展示に関わるみんなく電子ガイド用コンテンツの製作

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

「日本の文化」展示の新構築にともない、新たに必要となった電子ガイド用コンテンツ（日本語版、英語版、中国語版、韓国語版）を製作した。また、本年度の展示新構築のオープンに間に合うように、番号プレートを展示場に設置し、来館者へのサービスを開始した。

4. 博物館展示空間へのアクセスに関する実証的研究

プロジェクト・リーダー：吉田憲司（文化資源研究センター）

プロジェクト・メンバー：平井康之（客員教員・九州大学大学院）

本研究では、民博を対象とし、展示空間だけではなく、最寄り駅から展示場までのアプローチを、多様なユーザー（来観者）の視点から調査し、評価をおこなった。そして、その結果をもとに、触地図やホームページ、サイン計画などの課題と要件をまとめ、アクセス・デザインの実案を制作した。とくに、音声案内機能を搭載したデジタル触地図に関しては、プロトタイプを完成させた。

資料7. その他の文化資源計画事業

1. 新構築したヨーロッパ展示の部分改修

プロジェクト・リーダー：宇田川妙子（民族社会研究部）

平成23年度に新構築したヨーロッパ展示場において、オープニング後に実施したアンケート調査を踏まえ検討・精査したうえで展示の充実及び安全性の向上を図った。

2. 研究情報展示システムの開発と展示実施

プロジェクト・リーダー：福岡正太（文化資源研究センター）

本館の研究活動を来館者に紹介するため、大型（60"）のタッチパネルモニタを用いた情報提供システムを構築し、多機能端末室に設置した。また、車イスの利用者への利便性の考慮と、他の場所での情報提供に活用できるように小型（20"）の装置も導入した。

3. 年末年始展示イベント「うま」

2013年12月12日～2014年1月28日

プロジェクト・リーダー：小林繁樹（文化資源研究センター）

2014年の干支である「うま」に関する資料を民博の所蔵資料の中から選び、本館2階探求ひろば横休憩所に展示し、ウマにまつわる文化の紹介・解説を行なった。合わせて、展示活動研修会を実施し、研修参加者が撮影した写真パネルを同所で展示した。

文化資源関連事業

資料1. JICA との連携による博物館学コース

共通プログラム

表 共通プログラムの内容

項 目	詳 細
(1)博物館学総論	日本での博物館制度
	博物館と文化表象
	博物館と観光
	文化の展示の現在
	メディアと博物館
	文化行政と文化財保護政策
	知的財産権
(2)収集・保存	資料整理と利用
	情報の利用とそのための施設
	データベース
	映像記録（取材から番組制作まで）
	博物館における環境
	保存と修復 1（民族誌資料と歴史資料）
	保存と修復 2（考古資料）
	危機対策、災害対策
	保安、防災、防犯
	輸送と梱包
	映像資料の管理（マルチメディアを含む）
(3)展 示	博物館の建築
	常設展示－設計
	常設展示－ディスプレイ
	特別展示－設計
	特別展示－ディスプレイ
	近隣の博物館の見学
	モデル作成－目的と設計
(4)社会連携	教育活動
	市民サービス、利用者交流
	評価（来館者調査）
	博物館とバリアフリー
	歴史教育と博物館
	人権と博物館

(5)運営	博物館の運営
	博物館とマーケティング
	売店経営、商品開発
	文化遺産と開発
(6)普及プログラム	

(園田 直子・博物館学研修専門部会長)

特別展

マダガスカル

ZAFIMANIRY STYLE: LIFE AND HANDICRAFTS IN THE MIST FOREST OF MADAGASCAR

霧の森のくらし

2013年 3月14日(木)～6月11日(火)

開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで） 休館日／水曜日（期間中3月20日（水・祝）は開館、翌21日（木）は休館）

主催：国立民族学博物館 無料観覧日：5月5日（日・祝）

観覧料：一般420円（350円） 高校・大学生250円（200円） 小・中学生110円（90円）（ ）は、20名以上の団体料金。

その他の観覧料割引については、ホームページでご確認ください。



国立民族学博物館

<http://www.minpaku.ac.jp/>

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号 電話：06-6876-2151（代）

ZAFIMANIRY STYLE: LIFE AND HANDICRAFTS IN THE MIST FOREST OF MADAGASCAR



大英博物館のザフィマニリ木造家屋を展示



関連するもよおし

ワークショップ

- 1 ザフィマニリの方法で腰かけづくりに挑戦します。(事前申し込み制 7回連続)
- 2 大勢の手で大きなござを少しずつ編みあげ、文様入りの家壁を展示場にみんなで作ります。(当日受付 参加無料)

くわしくはホームページをご覧ください。

ミニレクチャー

ザフィマニリの村を訪れて展示をつくった研究者が、展示場をご案内します。

場所：特別展示館 開催日時は、ホームページでお知らせいたします。申し込み不要 要観覧料

みんぱくゼミナール

4月20日(土)「マダガスカル 霧の森のものづくり」 飯田卓(国立民族学博物館)

5月18日(土)「マダガスカル 霧の森にくらす人びと」 内堀基光(放送大学)

場所：本館講堂 開催時間：13:30～15:00 申し込み不要 参加無料

みんぱくウィークエンド・サロニー研究者と話そう

4月7日(日)から6月9日(日)までの毎週日曜日(5月5日をのぞく)、研究者がマダガスカルの社会や文化についてお話しします。

場所：本館展示場/特別展示館 開催時間：14:30～15:30 申し込み不要 要観覧料

こまかな幾何学文様が刻まれた木製の窓。釘を使わず建てられる木造家屋。さまざまな植物繊維で編みだされるかごや帽子。谷沿いや急斜面につくられた水田と焼畑。マダガスカル中央高地の「霧の森」では、人びとが森に寄りそいながらくらし、手間を惜しまずものづくりをおこなっています。遠い国なのにどこか懐かしい山里のくらしをご案内いたします。

特別展
マダガスカル 霧の森のくらし
ユネスコ無形文化遺産の木彫りを伝える、森の民ザフィマニリ。ものづくりが息づくくらしとは…

展示構成 / 体験と実演

展示場の中心には、大英博物館が1980年代に集めた実物大の木造家屋を建てます。家の周りでは、ザフィマニリ大工の技や道具、木彫りや編みものの材料と製作工程を、体感しながらご覧いただけます。シアター空間では、ザフィマニリからのメッセージをお伝えします。

なってみる 展示ガイドシート

いろんな見方で展示を楽しむためのガイドシートを、4種類ご用意しております。霧の森の村にくらすおとうさん、おかあさん、子どもの視点に加え、そこでくらす民族学者だけが知っている調査のエピソード編もあります。

子どもたちの遊び

ブンブンこまをつくったり、ござ編みをまねたり。将来ものづくりを担う子どもたちの天才的な遊びかたを、みんぱくミュージアムパートナーズ(MMP)の「チーム・ガシカーラ」が紹介します。「ガシカーラ」は、マダガスカルを意味するマダガスカル語(口語)です。

パナンピの工房

腰かけづくりや帽子づくりなど、ザフィマニリの本格的な手仕事を日本人スタッフが実演してご紹介します。「パナンピ」とは、助っ人やサポーターといった意味のマダガスカル語です。

霧の森に通じるポスト

今回の特別展に協力してくれた霧の森の人たちは、日本の観覧者がどのように感じたかを知りたがっています。手紙を書いてみませんか。日本語でも、マダガスカル語でも、みんぱく研究者が責任をもってお届けします。

場所：特別展示館 申し込み不要 要観覧料 開催日時は、ホームページでお知らせいたします。

特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」ホームページ <http://www.minpaku.ac.jp/>

<http://www.facebook.com/MistyForest13>
(実行委員会が運営するフェイスブックページ)



【無料観覧日】 5月5日(日・祝)

【観覧料】 一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)
*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

※全国のチケットぴあ(Pコード:673-285)、サークルKサンクス、ローソン(Lコード:57144)、セブンイレブンで本館展示割引観覧券(一般350円 購入日から1年間有効)をお買い求めいただけます。

※自然文化園(有料区域)を通ってこれる場合、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

※障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。

また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。



【交通のご案内】

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで万博記念公園駅・公園東口下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅、JR茨木駅、北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面から、「自然文化園・日本庭園中央」経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- 乗用車の場合は、万博記念公園の日本庭園前駐車場(有料)から徒歩約5分
- タクシーは、万博記念公園の日本庭園前駐車場まで乗り入れられます。日本庭園前駐車場を利用される方は、日本庭園前ゲート横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。
- 大阪モノレール公園東口駅からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

国立民族学博物館

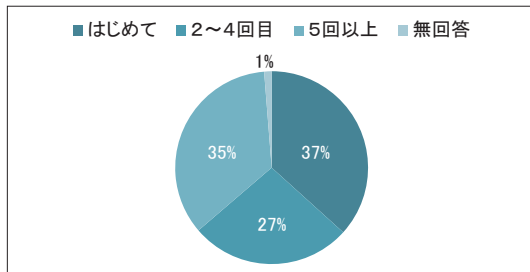
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6876-2151(代) <http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱく
携帯サイト

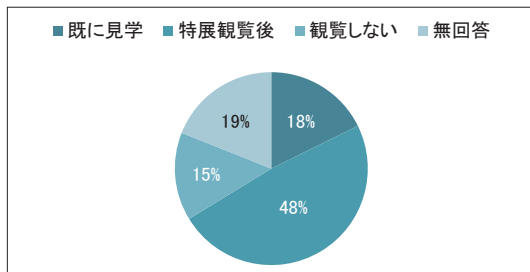
特別展「マダガスカル 霧の森の暮らし」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 237件

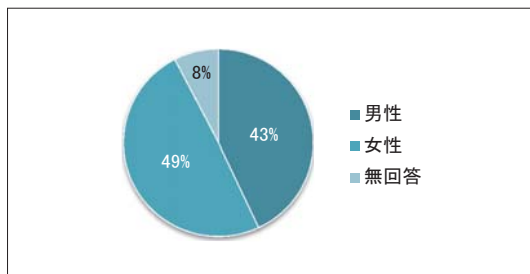
来館回数



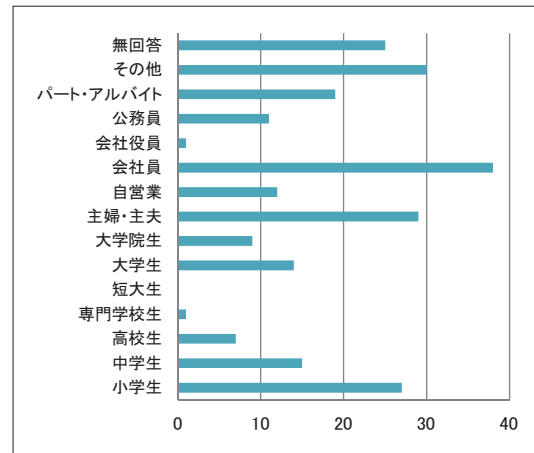
本館展示の観覧について



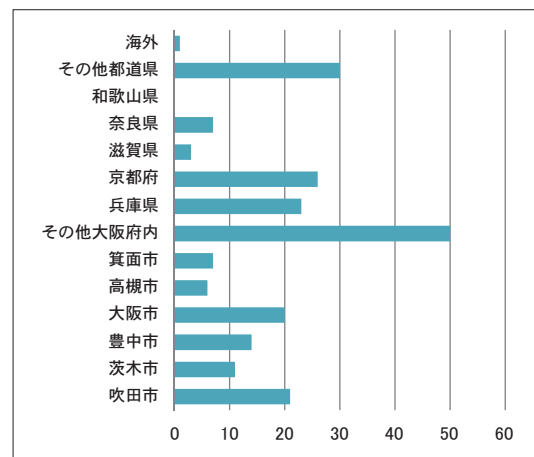
性別（男女比）



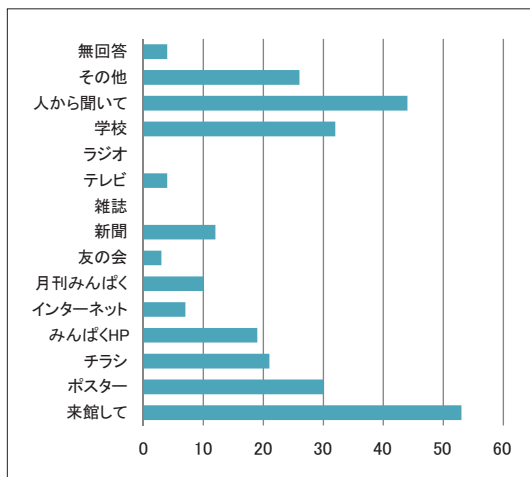
職業



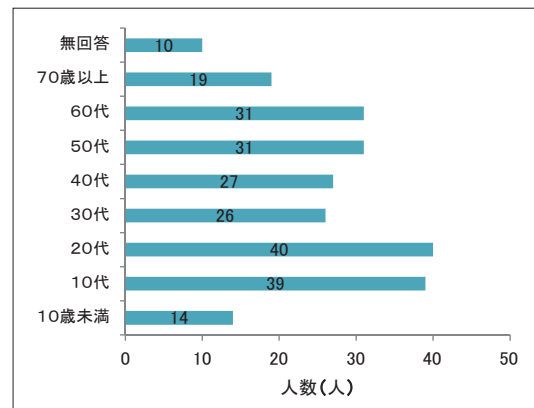
どこから来られましたか？



特別展を知ったのは（複数回答）



年代別



2013年

5月2日(木)～6月11日(火)

場所 国立民族学博物館 企画展示場B (本館2階)
主催 国立民族学博物館 韓国国立民俗博物館 韓国旗善アリラン研究所
後援 大阪韓国文化院 韓国旗善郡廳
協力 千里文化財團

아리랑 아리랑 아라리

아리랑 고개
를

넘어
가다

THE SOUL OF KOREA

아리랑

아리랑

심리
도
못
가
사

발
병
나
네

나
를
바
리
고

가
는
님
은

韓国の国立民俗博物館で昨年開催した「アリラン展」を世界に巡回する一環として、旗善アリラン研究所とも共同で、大阪の国立民族学博物館で最初に公開します。アリランは、朝鮮半島に出自をもつ人びとの心や風土、歴史、文化などを知ることができる重要なキーワードのひとつです。この展示を通して、民族の魂を感じ取ってください。

旗善郡立アリラン芸術団のアリラン公演

韓国三大アリランの一つ旗善チョンソンアリラン。

展示とともに楽しめる異色公演。

日時…5月3日(金・祝)14時

場所…企画展示場B (本館2階)

安聖民「アリランを楽しもう!!」

在日三世のパンソリ唱者、安聖民さんによるアリラン公演と歌唱指導

日時…5月4日(土・祝)6日(月・振替)、12日(日)、19日(日)、6月8日(土)、9日(日)

毎回2回公演 11時30分、14時、17時30分

場所…企画展示場B (本館2階)

朴燦鎬「韓国大衆歌謡史とアリラン」(聞き手:福岡正太(本館准教授))

『韓国歌謡史』1984年(『国文社』の著者、朴燦鎬先生に大衆歌謡の歴史を通じた

日韓の文化交流についてお話をうかがいます。

日時…5月11日(土)14時、15時

場所…本館展示場東南アジア横休憩所

宮塚利雄「アリランの誕生」(聞き手:朝倉敏夫(本館教授))

『アリランの誕生』(創知社とその増補版『北と南をつなぐアリランとは何か』

小学館文庫の著者、宮塚利雄教授(山梨学院大学)にアリランについてお話をうかがいます。

日時…5月18日(土)14時、15時

場所…本館展示場東南アジア横休憩所

*都合により予定を変更することがあります。詳しくはホームページをご覧ください。



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

05

アリランレコード



06 文化芸術

1957年4月3日に東邦劇場で封切られたキム・ソドン監督の映画『アリラン』の宣伝チラシ。南映映画社が製作したこの映画は、ナ・ウンギョの『アリラン』を原作としている。チャン・ドンフ、イ・チョ・ミョン、ユン・ボンチュンらが主演した。



03 映像



韓服を着て鼓を打ったり、サンモを回しながら小鼓を打つ姿が描かれたこのマッチは、1990年代にライターが広く使われるようになるまで最も多く販売されたマッチの一つである。



04

生活



1950年代初めの木彫人形。朝鮮戦争当時、国連軍兵士に帰国の記念品として人気を呼んだ人形である。

01 映像書籍のアーカイブ



02 歴史

1950年代後半に東京のAsian Film Incorporated Productionが製作した画報型ソノシート。



2002年FIFAワールドカップにおける米韓国人サッカークラブ「アリランチーム」のユニホーム。

観覧料

一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円) ()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引(料金(要証明書等))

*大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

※ 全国のチケットぴあ(Pコード: 673-285)、サークルKサンクス、ローソン(Lコード: 57144)、セブンイレブンで本館展示割引観覧券(一般350円 購入日から1年間有効)をお買い求めいただけます。

※ 自然文化園(有料区域)を通してこられる場合、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

※ 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

交通のご案内

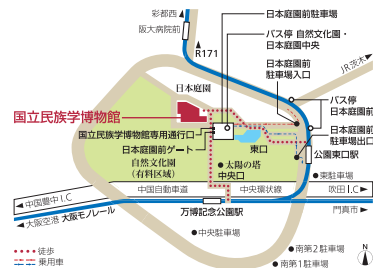
大阪・千里万博記念公園内

- ※ 大阪モノレールで万博記念公園駅・公園東口駅下車、徒歩約15分。大阪モノレール公園東口駅からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- ※ 阪急茨木駅、JR茨木駅、北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面から、「自然文化園・日本庭園中央」経由のバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- ※ 乗用車の場合は、万博記念公園の日本庭園前駐車場(有料)から徒歩約5分
- ※ タクシーは、万博記念公園の日本庭園前駐車場まで乗り入れていただけます。日本庭園前駐車場を利用される方は、日本庭園前ゲート横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。



国立民族学博物館

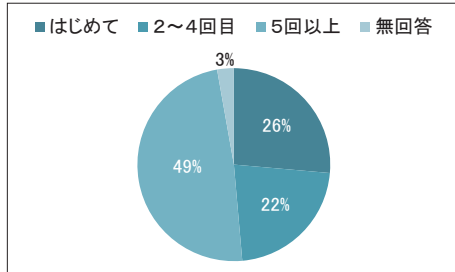
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL:06-6876-2151(代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



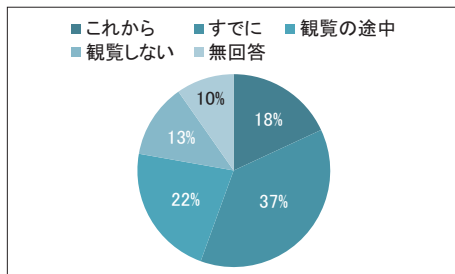
企画展「アリラン ― The Soul of Korea」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 72件

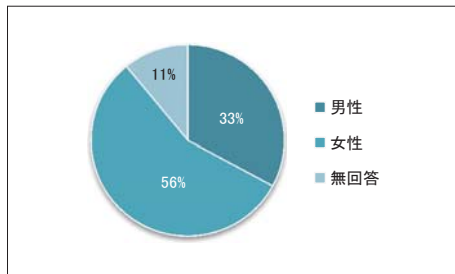
来館回数



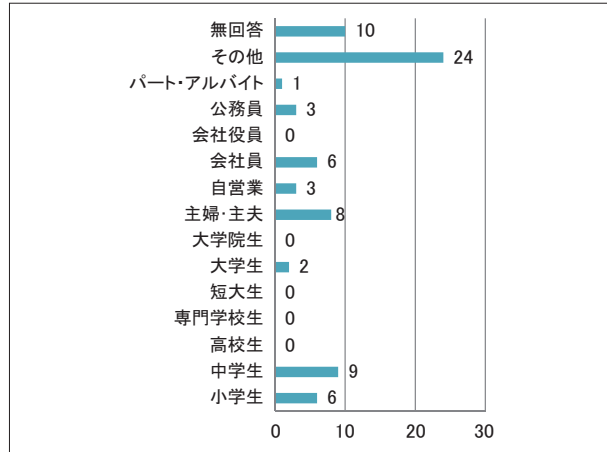
常設展示場の観覧について



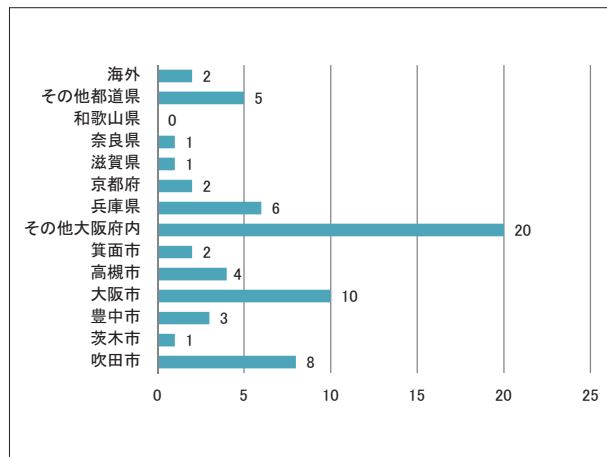
性別（男女比）



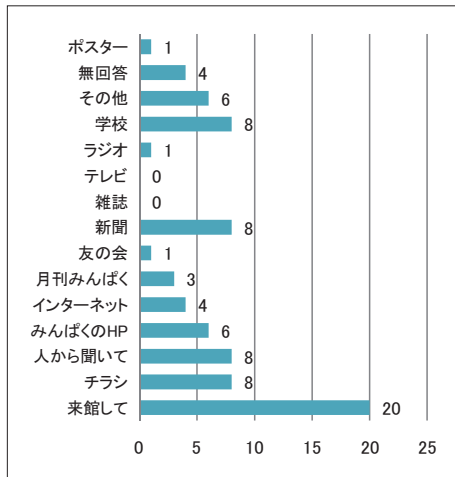
職業



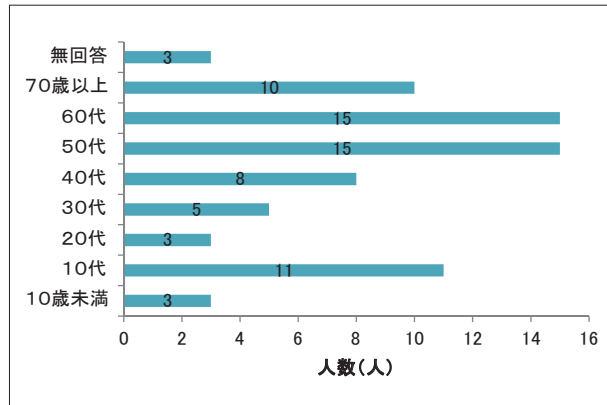
どこから来られましたか？



企画展を知ったのは（複数回答）



年代別



みんぱく 企画展

アマゾンの 生き物文化

2013年5月23日(木)～8月13日(火)

国立民族学博物館
企画展示場A



主催：国立民族学博物館 協力：山形県鶴岡市

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで) 休館日：水曜日

無料観覧日：6月30日(日)

観覧料：一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

・()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)。大学等*は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

・障害者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。

・毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

関西から
文化力
POWER OF
CULTURE

アマゾンのすてきな生き物が いっぱい待っているよ

アマゾンの 生き物文化



アマゾンには世界最大の熱帯林が広がり、豊かな生き物文化が育まれてきました。インコやワシの羽を使った頭飾り、サルやペッカリーの歯の首飾りなどなど。そして、これらの動物は、「ペット」としても人々に愛されています。野生を飼い慣らすことのできるアマゾンの人たちの世界を体験してみませんか。

ギャラリートーク 13:00～13:30

- 池谷 和信 (国立民族学博物館・教授) 6月 1日(土)、7月14日(日)、8月10日(土)、8月11日(日)
- 山本 紀夫 (国立民族学博物館・名誉教授) 6月 2日(日)
- 中川 哲男 (天王寺動物園・元園長) 7月13日(土)
- 山口 吉彦 (アマゾン民族館・館長) 7月27日(土)
- 小宮 輝之 (上野動物園・元園長) 7月28日(日)
- 中牧 弘允 (国立民族学博物館・名誉教授) 8月 3日(土)

トークイベント「鳥の羽根 いろいろどり」

7月27日(土) 14:00～16:00
館内・館外の研究者が、世界の鳥の羽根についてお話しします。

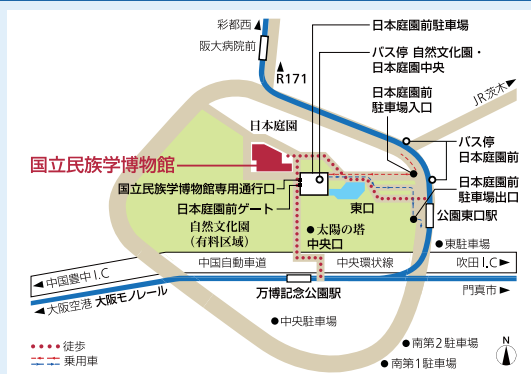
ウィークエンド・サロン 14:30～15:30

- 池谷 和信 (国立民族学博物館・教授) 7月14日(日)
- 齋藤 晃 (国立民族学博物館・准教授) 7月21日(日)

交通のご案内

* 国立民族学博物館(みんぱく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
「みんぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」下車徒歩約 15 分
* 自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」下車徒歩約 15 分
* 「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス……………[近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約 20 分、JR 茨木駅から約 10 分「日本庭園前」下車、徒歩約 15 分
[阪急バス] (万博記念公園駅経由千里中央行き)
阪急茨木市駅から約 20 分、JR 茨木駅から約 10 分
「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約 5 分
- タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約 5 分
- 乗用車……………駐車場が無い「みんぱく」への車の乗り入れはできません。
万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄りの「日本庭園前駐車場」から約 5 分
* 「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



 国立民族学博物館

● お問い合わせ
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号
Tel: 06-6876-2151 (代)
<http://www.minpaku.ac.jp/>

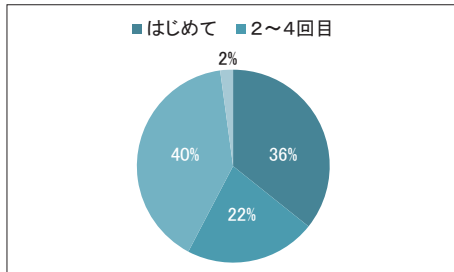
みんぱく
携帯サイト



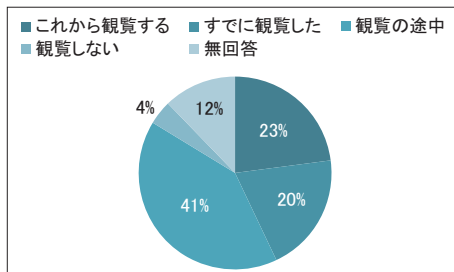
企画展「アマゾンの生き物文化」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 319件

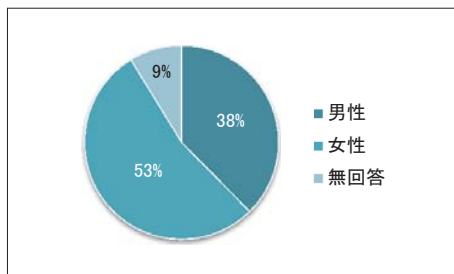
来館回数



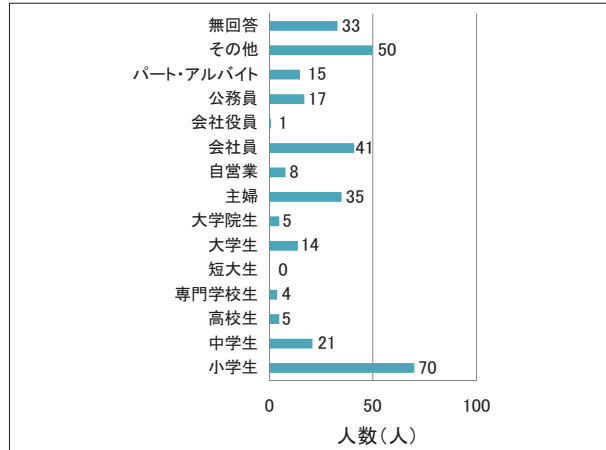
常設展示場の観覧について



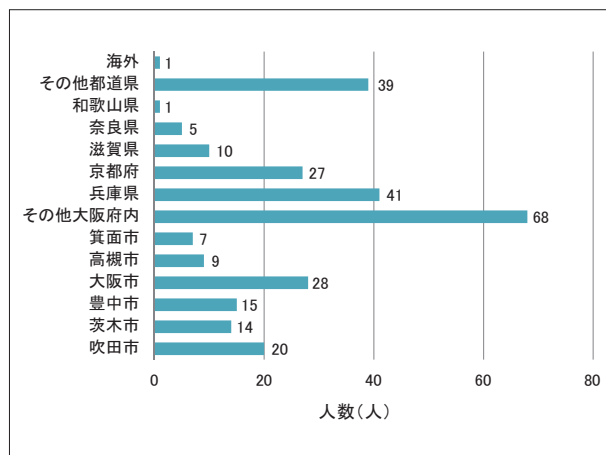
性別（男女比）



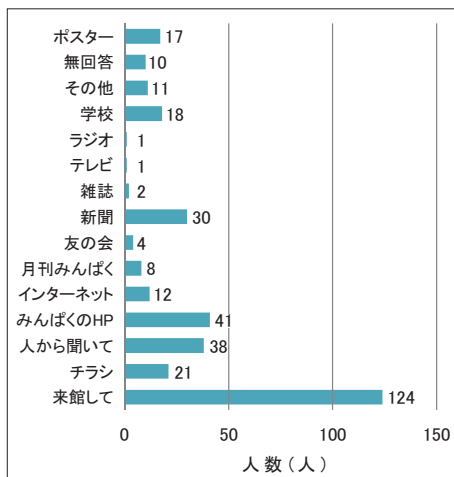
職業



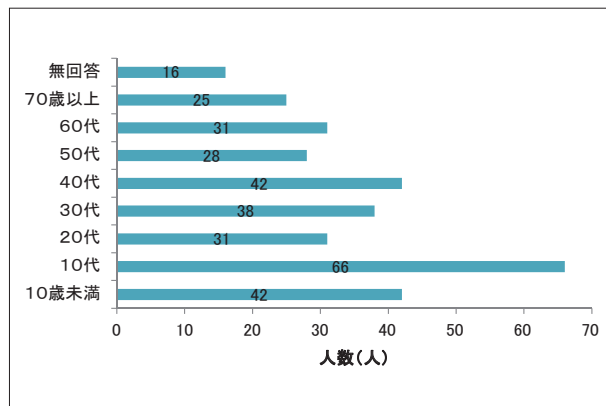
どこから来られましたか？



企画展を知ったのは（複数回答）



年代別



人間文化研究機構連携展示

Transforming Arms into Art: Peace-building in Mozambique

武器をアートに

—— モザンビークにおける平和構築

2013.7.11.木 - 11.5.火

国立民族学博物館 企画展示場B



〈ギター奏者〉
ケスター作 2012年

〈パンを焼く人〉
フィエル・ドス・サントス作 2002年
えひめグローバルネットワーク所蔵

〈椅子〉
ケスター作 2012年

【主催】国立民族学博物館、総合地球環境学研究所 【協力】特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク

【開館時間】 10:00~17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】 水曜日 【無料観覧日】 9月14日(土)、9月16日(月・祝)、11月3日(日・祝)

【観覧料】 一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)

- ・ () は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等) ※大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程
- ・ 障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
- ・ 毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が別途必要です。

Transforming Arms into Art: Peace-building in Mozambique

武器をアートに

—— モザンビークにおける平和構築



〈いのちの輪だち〉
フィエル・ドス・サントス、
ケスター作 2012年



アフリカのモザンビークでは、1975年の独立後1992年まで続いた内戦の結果、戦争終結後も大量の武器が民間に残されました。現在、この武器を農具と交換することで回収し、武装解除を進めるとともに、回収された銃器を用いてアートの作品を生み出し、平和を訴えようという、TAE「銃を鋏に」というプロジェクトが進められ、内戦後の平和構築のモデルとして注目を集めています。このプロジェクトにより、日本に住む人びとへのメッセージを込めて制作された作品「いのちの輪だち」が、さきごろ民博におさめられました。

この企画展では、民博が収集した作品と、「銃を鋏に」のプロジェクトを支援してきた日本国内のNPO法人「えひめグローバルネットワーク」が所蔵する作品をあわせて展示し、アートを通じて平和を築く営みを紹介します。

国際ワークショップ … 7.13.土 / 13:30~16:30 本館第4セミナー室

参加無料 要事前申込 ※申込方法の詳細はホームページをご確認ください。

武器をアートに — モザンビークにおける平和構築の営みを考える

ウィークエンド・サロン — 研究者と話そう … 7.28.日 / 14:30~15:30 本館展示場

要観覧料 申込不要 講師 吉田 憲司 (国立民族学博物館教授)

みんなくゼミナール … 10.19.土 / 13:30~15:00 (開場13:00) 本館講堂

参加無料 申込不要 定員450名 講師 吉田 憲司

心の武装解除 — モザンビーク「武器をアートに」プロジェクトを考える

交通のご案内

* 国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約 15 分
* 自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

「公園東口駅」下車徒歩約 15 分

* 「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

●バス

近鉄バス (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約 20 分、

JR 茨木駅から約 10 分「日本庭園前」下車、徒歩約 15 分

阪急バス (万博記念公園駅経由千里中央行き)

阪急茨木市駅から約 20 分、JR 茨木駅から約 10 分

「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約 5 分

●タクシー

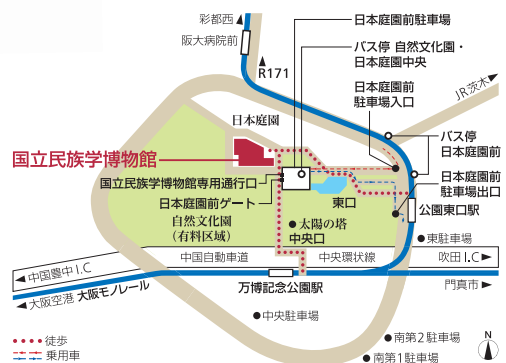
万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約 5 分

●乗用車

駐車場が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄りの「日本庭園前駐車場」から約 5 分

* 「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



国立民族学博物館

●お問い合わせ

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10 番 1 号

Tel: 06-6876-2151 (代)

http://www.minpaku.ac.jp/

公式 Facebook http://www.facebook.com/MINPAKU.official

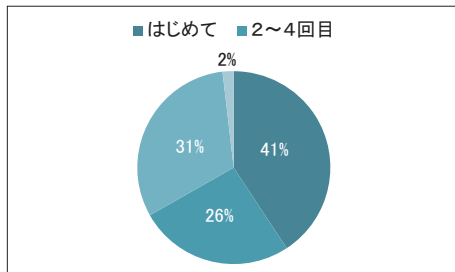
みんなく
携帯サイト



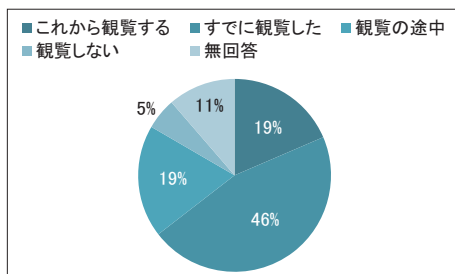
企画展「武器をアートに ― モザンビークにおける平和構築」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 265件

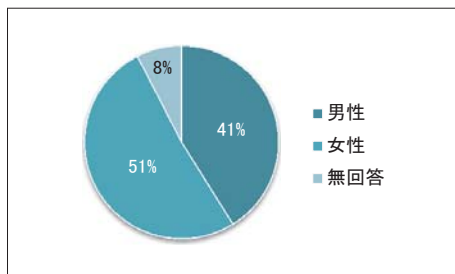
来館回数



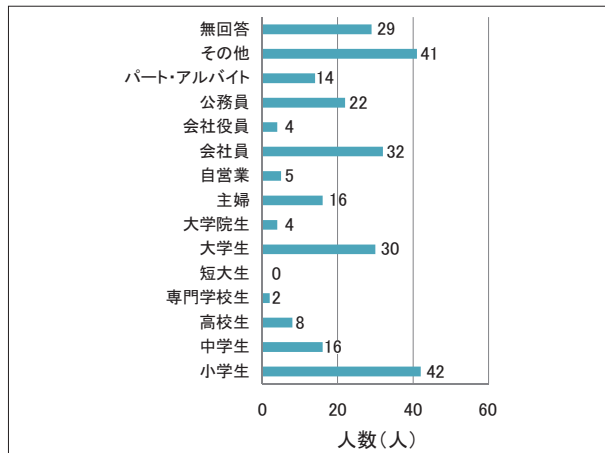
常設展示場の観覧について



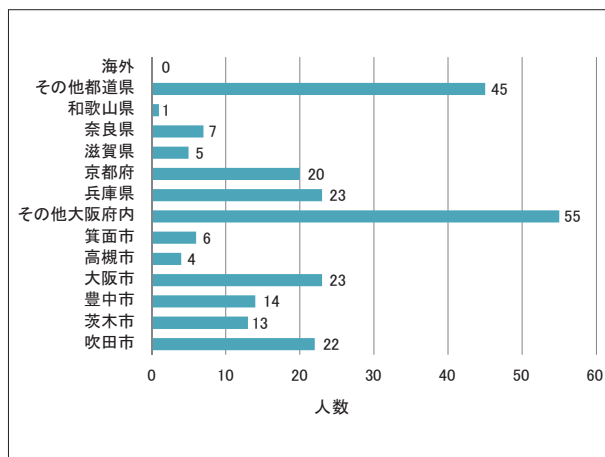
性別 (男女比)



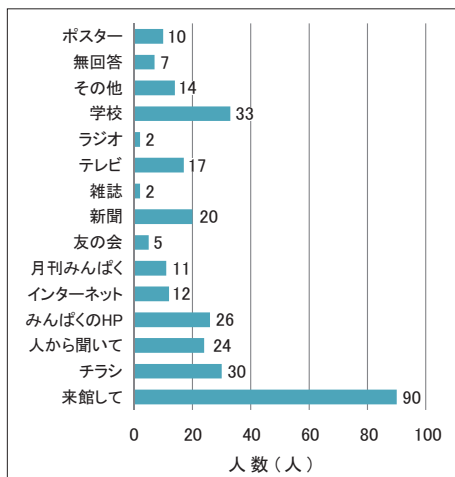
職業



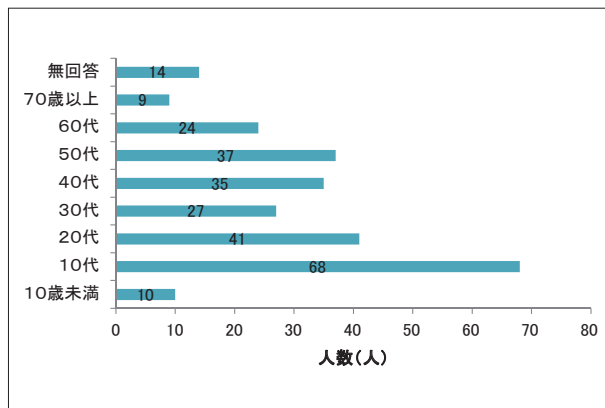
どこから来られましたか？



企画展を知ったのは (複数回答)



年代別



みぽく 企画展

〈国際連携展示〉

台湾平埔族の 歴史と文化

看見平埔:臺灣平埔族群歷史與文化特展

平埔を見つめる
看見
平埔

2013

9/12[木]—11/26[火]

国立民族学博物館 企画展示場A

〔開館時間〕10:00～17:00(入館は16:30まで) 〔休館日〕水曜日

〔無料観覧日〕9月14日(土)、9月16日(月・祝)、11月3日(日・祝)、
11月16日(土)、11月17日(日)

〔観覧料〕一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、
小・中学生110円(90円)

◇()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の
作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金
(要証明書等) *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程

◇障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに無料で観覧できます。

◇毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園
(有料区域)を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

主催:国立民族学博物館/国立台湾歴史博物館(台湾)
後援:公益財団法人交流協会/台北駐日経済文化代表処
協力:天理大学附属天理参考館

関西から

文化力
POWER OF
CULTURE

台湾平埔族の歴史と文化

80年代以降に台湾で進んだ民主化は、政治的な公正さだけでなく、多様な民族が共生する社会をめざすものでした。かつて高砂族^{たかさごぞく}とよばれたオーストロネシア系の先住民、漢族系^{はっか}住人とひとくくり^{へいほぞく}にされてきた客家の人たちが民族としての自律性を求め、それが社会の中で認められていきました。早くから漢族の影響を強くうけ、慣習、言語、物質文化が大きく変化していった平埔族の人たちもまた、歴史史料や博物館資料を手がかりに自分たちの歴史を見つめなおし、民族アイデンティティを再興させていきました。本展示会は平埔族の歴史と文化を考え、彼らの主張に台湾社会の人たちが耳を傾ける機会を創った国立台湾歴史博物館の特別展示会を日本で再構成したものです。

みんなくウィークエンド・サロンー研究者と話そう

10月13日(日) 野林厚志(国立民族学博物館・教授)

【場所】本館展示場(ナビひろば)

申込不要

【開催時間】14:30~15:30

要観覧料

みんなくゼミナール

11月16日(土)「台湾平埔族の歴史と文化」

野林厚志(国立民族学博物館・教授)

【場所】講堂

申込不要

【開催時間】13:30~15:00(開場13:00)

参加無料



平埔を見つめる
看
平埔

交通のご案内

* 国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール…「万博記念公園駅」下車徒歩約15分

* 自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。

「公園東口駅」下車徒歩約15分

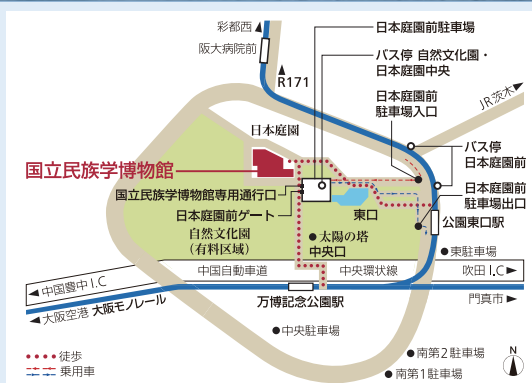
* 「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

●バス…[近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分、

JR 茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分

●タクシー…万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分

●乗用車…駐車場が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。
万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄りの「日本庭園前駐車場」から約5分
* 「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



国立民族学博物館

●お問い合わせ
国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6876-2151(代)
ホームページ <http://www.minpaku.ac.jp/>
公式 Facebook <http://www.facebook.com/MINPAKU.official>

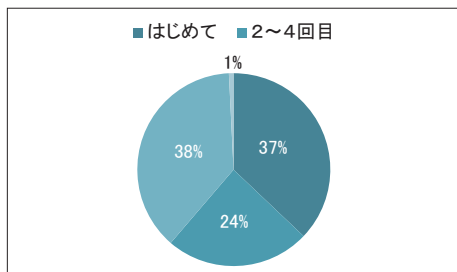
みんなく
携帯サイト



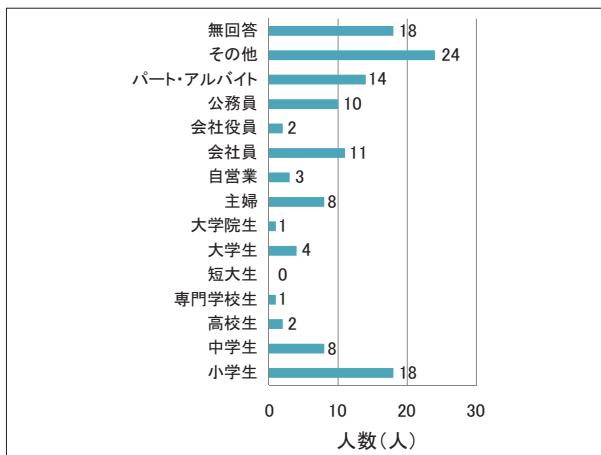
企画展「台湾平埔族の歴史と文化」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 124件

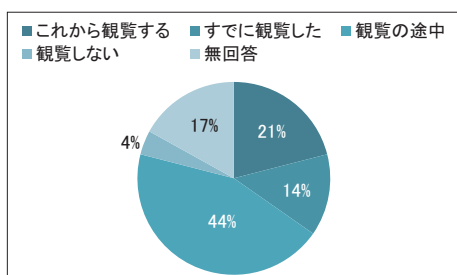
来館回数



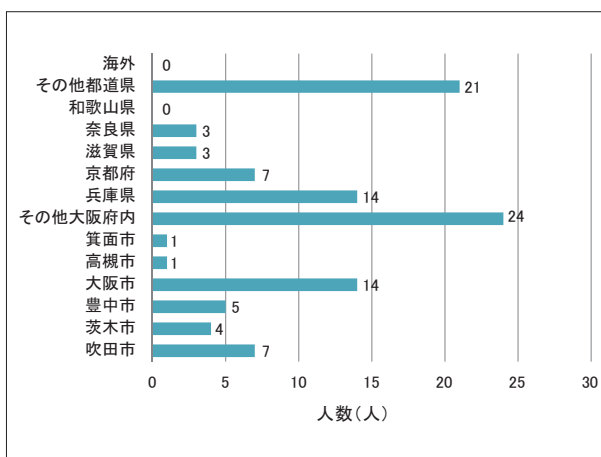
職業



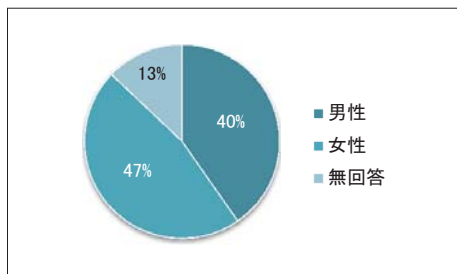
常設展示場の観覧について



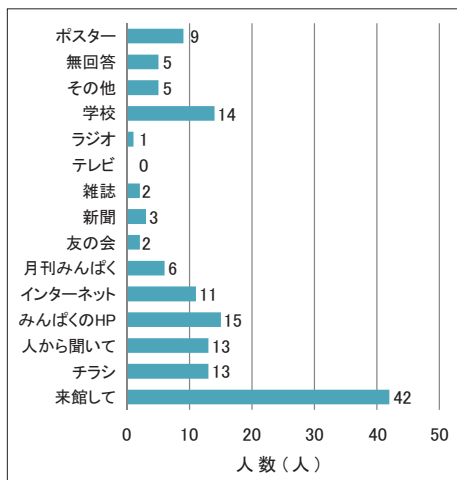
どこから来られましたか？



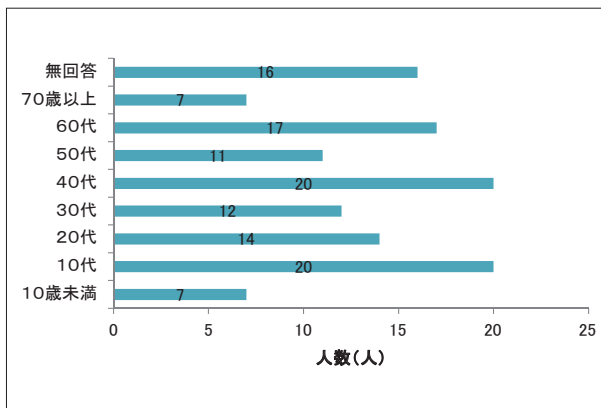
性別（男女比）



企画展を知ったのは（複数回答）



年代別



ATTIC MUSEUM

特別展
屋根裏の部屋
博覧館
ATTIC MUSEUM
渋谷敬三記念事業



国立民族学博物館

2013年

9月19日[木] - 12月3日[火]

会場／国立民族学博物館 特別展示館

開館時間／10時～17時（入館は16時30分まで）

休館日／水曜日

無料観覧日／11月3日（日・祝）、11月16日（土）、17日（日）

観覧料／一般830円（560円）

高校・大学生450円（250円）

小・中学生250円（130円）

（）は20名以上の団体料金。その他の観覧料割引については、ホームページ等でご確認ください。



日本銀行総裁、大蔵大臣、
渋沢敬三が本当になりたかったものとは・・・
屋根裏部屋に込めた思い

アチックミュージアムとは、
日銀総裁や大蔵大臣を歴任した銀行家・渋沢敬三(1896～1963)が
邸内の屋根裏部屋に設立した私設博物館兼研究所のこと。
玩具研究にはじまり、やがて民具研究に転じて、
日本の民俗学に独自の的方法論を樹立した。渋沢民俗学の原点がここにある。

特別展実行委員長 近藤雅樹

特別展 屋根裏の部屋 博物館

ATTIC MUSEUM
渋沢敬三記念事業

2013年
9月19日[木] - 12月3日[火]

関連もよおし

みんなくゼミナール

9月21日(土)

「屋根裏部屋博物館主人の横顔」

開催時間 / 13:30 ~ 15:00 (開場 13:00)

場所 / 本館講堂 申込不要 参加無料

飯田卓 (国立民族学博物館 准教授)、木村裕樹 (龍谷大学 非常勤講師)、
永井美穂 (渋沢史料館 学芸員)

みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話を

9月22日(日)

「アチックミュージアムの民具コレクション」
木村裕樹 (龍谷大学 非常勤講師)

11月24日(日)

「アイヌの工芸について」
齋藤玲子 (国立民族学博物館 助教)

開催時間 / 14:30 ~ 15:30

場所 / 特別展示館、本館展示場 (予定) 申込不要 要観覧料

公開シンポジウム

10月13日(日)

「渋沢敬三を語る一偉大なる学問の庇護者」

開催時間 / 13:30 ~ 16:30 (開場 13:00) 10:00 から講堂入口にて整理券を配布

場所 / 本館講堂 申込不要 参加無料

井上潤 (渋沢史料館 館長)、内田幸彦 (埼玉県立歴史と民俗の博物館 主任学芸員)、
武田晴人 (東京大学大学院 教授)、宮本瑞夫 (宮本記念財団 理事長)、久保正敏 (国立民族学博物館 教授)

主催 / 国立民族学博物館 協賛 / 一般財団法人MRAハウス 後援 / 大阪府、大阪府教育委員会、吹田市、吹田市教育委員会、日本文化人類学会
協力 / 公益財団法人渋沢栄一記念財団渋沢史料館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、神奈川大学日本常民文化研究所、財団法人宮本記念財団、渋沢栄一記念館、東北大学史料館
工学院大学図書館、流通経済大学図書館、西東京市中央図書館、星野リゾート青森屋、松涛館、八勝館、一般財団法人千里文化財団

交通のご案内

* 国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。

「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール...「万博記念公園駅」下車徒歩約15分

* 自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園各ゲート脇の券売機で
当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」下車徒歩約15分

●バス...

[近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅より約20分、

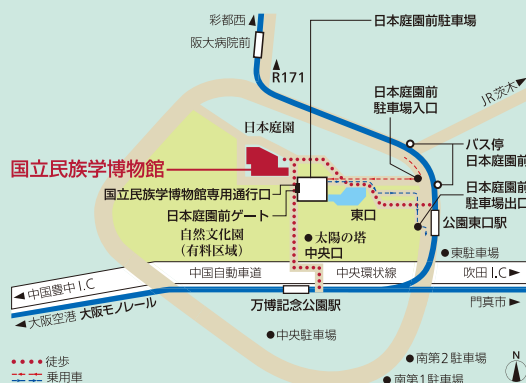
JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分

●タクシー...

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分
駐車場が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。

●乗用車...

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。
最寄りの「日本庭園前駐車場」から約5分
*「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある
「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



 **国立民族学博物館**

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号 TEL.06-6876-2151 (代)
http://www.minpaku.ac.jp
公式Facebook http://www.facebook.com/MINPAKU.official

みんなく

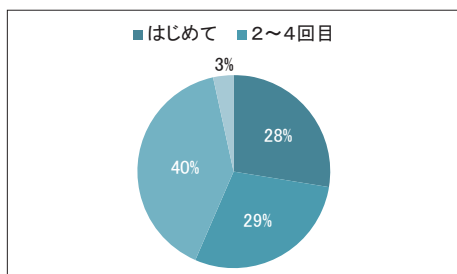


クリック

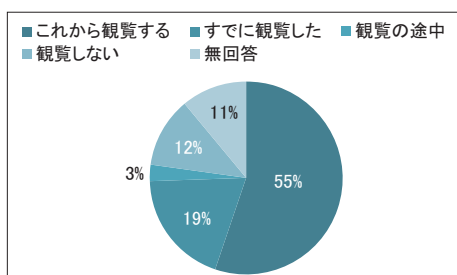
特別展「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館 Attic Museum」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 145件

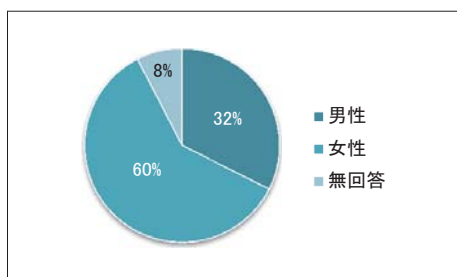
来館回数



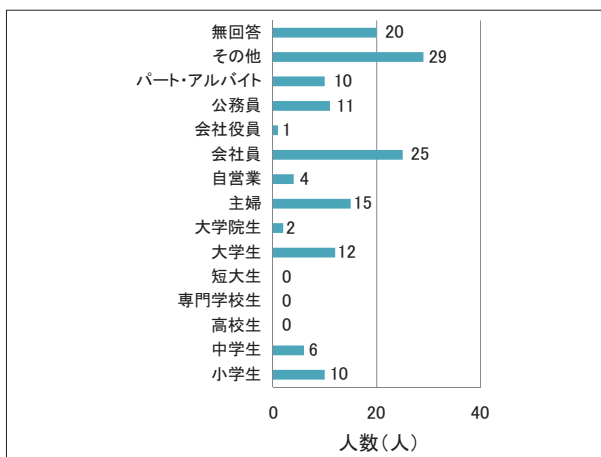
常設展示場の観覧について



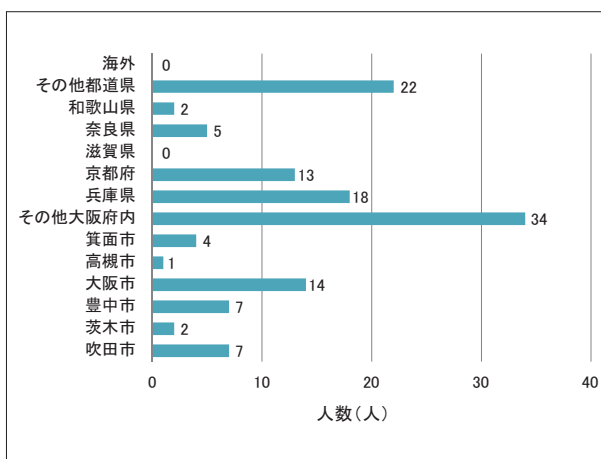
性別 (男女比)



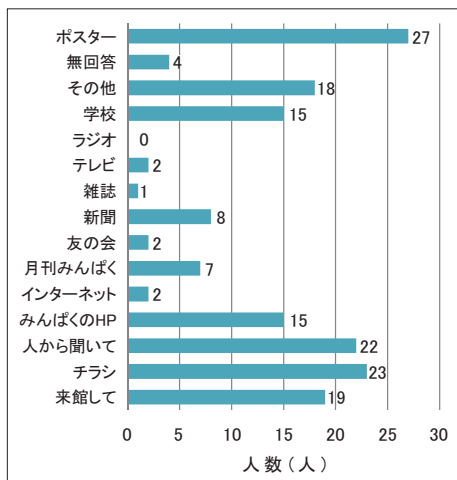
職業



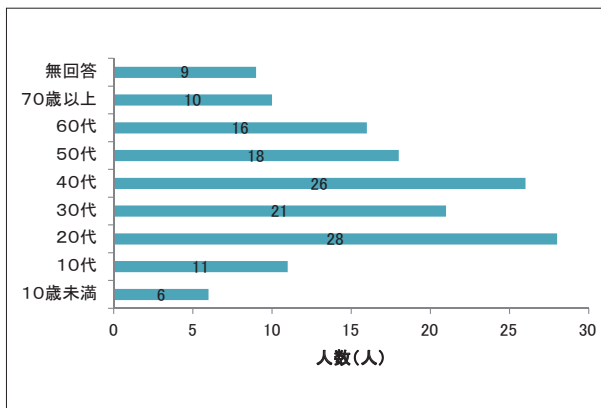
どこから来られましたか？



特別展を知ったのは (複数回答)



年代別



みふく

年末年始展示イベント



うま

2013 年 12 月 12 日（木）～ 2014 年 1 月 28 日（火）

国立民族学博物館 本館 2 階 探究ひろば横休憩所

〔開館時間〕 10:00～17:00（入館は16:30まで）
〔休館日〕 水曜日、年末年始（12月28日～1月4日）
〔観覧料〕 無料 ※自然文化園（有料区域）を通行される場合、入園料が必要です。

年末年始展示イベント

うま



2014年の干支である「うま」をテーマに、みんぱく所蔵の資料と、世界各地の「うま」にかかわる興味深い情報をおとどけいたします。年末年始の一日を、世界の人びとと「うま」とのつながりに触れながら、みんぱくで過ごしてみませんか？

関連イベント

みんぱく教員によるギャラリートーク

開催日：2014年1月13日（月・祝）
 時 間：①11:00～11:20 ②14:30～14:50
 場 所：本館2階 探究ひろば横休憩所
 参加費：無料
 担 当：小林繁樹（国立民族学博物館 教授）

大きな「うま」ジグソーパズルに挑戦！

みんぱくの展示資料を使った絵柄のジグソーパズルを難易度の高いものと低いもの2種類をご用意しています。参加者には「うま」にまつわる情報シートをお配りします。

開催日：2014年1月13日（月・祝）・19日（日）
 時 間：10:30～16:30（受付終了16:00）
 場 所：本館1階 エントランスホール
 参加費：無料（当日受付）

※6歳未満の方は保護者同伴でご参加ください。

みんぱくミュージアムパートナーズ（MMP）企画

おりがみで遊ぼう！～干支シリーズ～「午」

おりがみで「うま」を折るワークショップです。
 午前の部と午後の部で内容が変わります。
 開催日：2014年1月13日（月・祝）
 時 間：午前の部 10:00～/10:45～/11:30～
 午後の部 13:00～/13:45～/14:30～
 （各回40分程度）
 場 所：本館1階 エントランスホール
 参加費：午前の部 無料/午後の部 50円
 定 員：各回10名（当日受付）
 ※6歳未満の方は保護者同伴でご参加ください。

干支の「午」で絵馬をつくろう

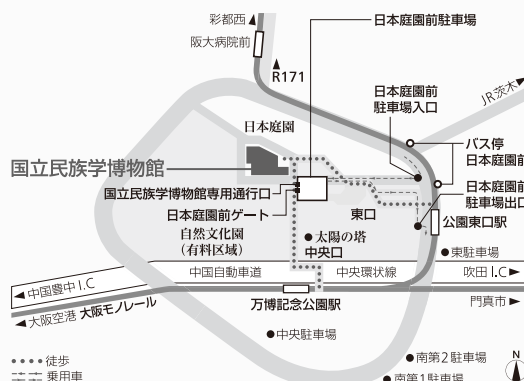
本館展示場にある「うま」をスケッチするワークショップです。
 開催日：2014年1月26日（日）
 時 間：10:30～16:00（随時受付）
 場 所：本館1階 エントランスホール
 参加費：無料
 定 員：100名（当日受付）

会期中を含む、2013年12月5日（木）～2014年2月18日（火）は展示場一部閉鎖期間中の為、**観覧無料**です。

交通のご案内

＊国立民族学博物館（みんぱく）は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
 「みんぱく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
 ＊自然文化園（有料区域）を通行される場合は、**入園料が必要です**。
 「公園東口駅」下車徒歩約15分
 ＊「公園東口駅」からは自然文化園（有料区域）を通行せずに来館できます。
- バス……………[近鉄バス]（阪大本部前行き）阪急茨木市駅から約20分、
 JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
- タクシー……………万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分
 駐車場が無い「みんぱく」への車の乗り入れはできません。
- 乗用車……………万博記念公園の駐車場（有料）をご利用願います。
 最寄りの「日本庭園前駐車場」から約5分
 ＊「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある
 「国立民族学博物館専用通行口」をお通りください。



国立民族学博物館

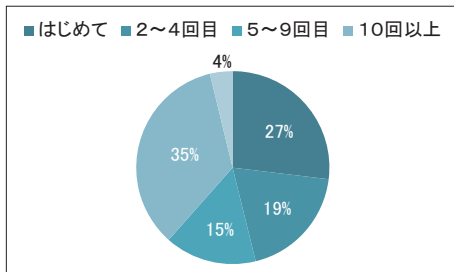
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号 TEL.06-6876-2151（代）
<http://www.minpaku.ac.jp>
 公式Facebook <http://www.facebook.com/MINPAKU.official>

みんぱく クリック

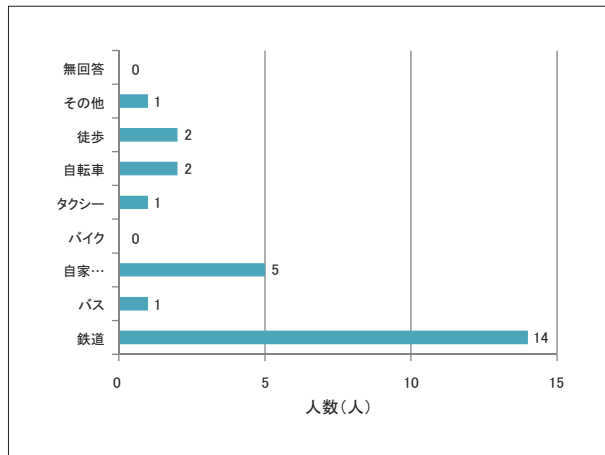
「年末年始展示イベントうま」 アンケートグラフ

○アンケート回答数 26件

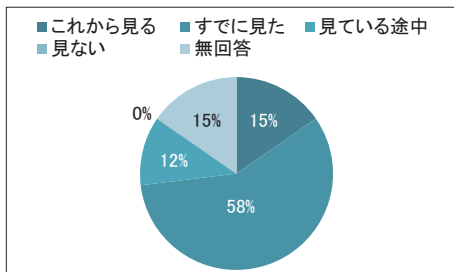
来館回数



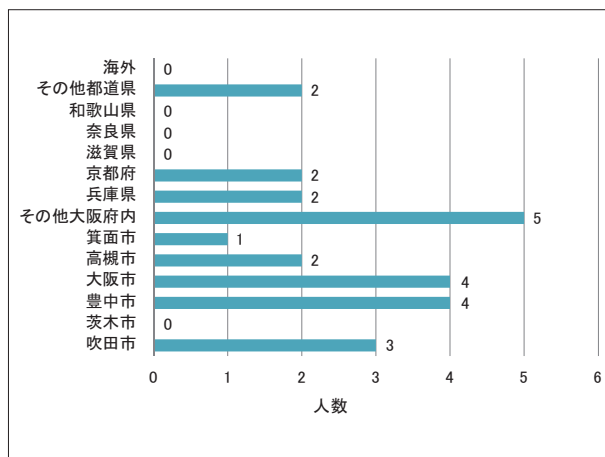
職業



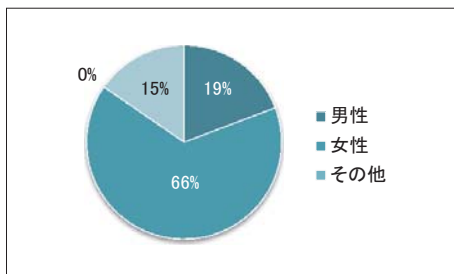
常設展示場の観覧について



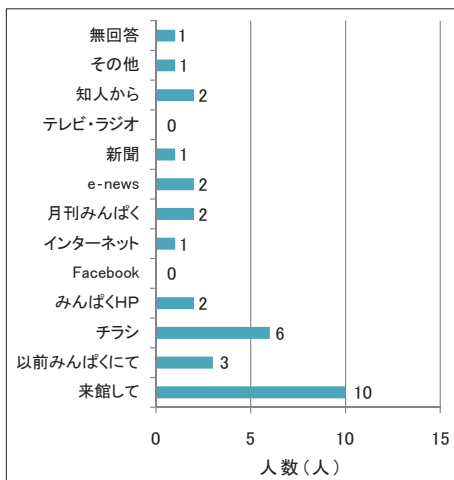
どこから来られましたか？



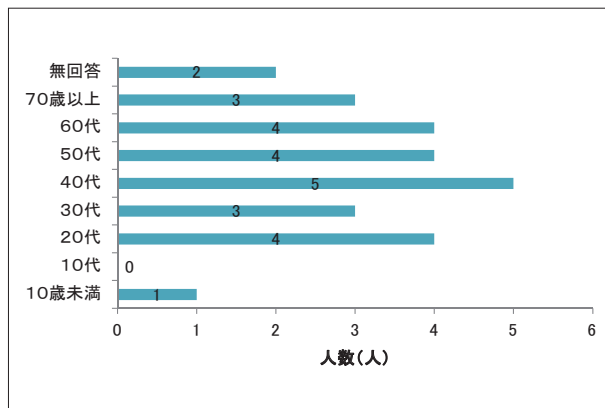
性別（男女比）



企画展を知ったのは（複数回答）



年代別





スタッフ紹介



スタッフ紹介 (2013年度)

朝倉敏夫 [あさくら としお] センター長 (併) 教授

久保正敏 [くぼ まさとし] 教授

小林繁樹 [こばやし しげき] 教授

園田直子 [そのだ なおこ] 教授

吉田憲司 [よしだ けんじ] 教授

上羽陽子 [うえば ようこ] 准教授

信田敏宏 [のぶた としひろ] 准教授

林 勲男 [はやし いさお] 准教授

日高真吾 [ひだか しんご] 准教授

福岡正太 [ふくおか しょうた] 准教授

南真木人 [みなみ まきと] 准教授

山本泰則 [やまもと やすのり] 准教授

川瀬 慈 [かわせ いつし] 助教

中村嘉志 [なかむら よしゆき] 客員教員

平井康之 [ひらい やすゆき] 客員教員